ISSN 0918-3035

総社市埋蔵文化財調査年報 4

（平成 5 年度）

1 9 9 4 年 11 月

総 社 市 教 育 委 員 会

序

肥沃な平野と豊かな水に恵まれた総社市は，弥生時代以降吉備の中枢として栄え，国指定史跡作山古墳・鬼城山をはじめ数多くの遺跡が存在します。これらの遺跡は，過去の歴史を語るだけでなく，これからの新しい社会，文化を築く貴重な資料です。「古代と21世紀を結ぶ風格ある文化創造都市」というスローガンは，まさにこのような歴史的風土の中から生まれてきたものです。

しかしながら，市域の整備と開発は年々増加し，市民の生活は便利になってきておりますが，その一方で貴重な遺跡は次々に姿を消していっており，文化財の保護・保存が今大きな課題となっております。またやむをえず，記録保存の措置を講じた遺跡の成果についても，時を置かず報告書として刊行するまでにはいたらないのが現状です。こうした現状をふまえ，事業概要と調査成果を少しでも早く公開することを目的として，年報を刊行しはじめ，今年ではや４年目にあたります。成果をいち早く多くの方々と共通のものとすること並びに，今後の開発と保護・保存の協議が円滑に進むための一助となり，さらには地域の歴史を研究する資料となれば幸いです。

平成６年11月

総社市教育委員会
教育長　浅　沼　　力

例　　言

1．本書は，総社市教育委員会が1993年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査及び立会・確認調査について，その概要をまとめたものである。

2．本書は，各調査の担当者である村上幸雄，谷山雅彦，高田明人，武田恭彰，前角和夫，高橋進一，平井典子が執筆し，それを編集したものである。それぞれ文末に執筆者名を記し，文責とする。編集は平井が行なった。

3．遺物整理，年報作成にあたっては，西平登代子（社会教育課服部収蔵庫）の協力を得た。

4．本書の高度値は特記したもの以外はすべて海抜高であり，遺構実測図の方位は国土座標の入っているものを除き，すべて磁北である。

5．本書に関係する実測図，写真，遺物等は，総社市埋蔵文化財学習の館で保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

1．総社市埋蔵文化財行政の概要

1993年度　文化財行政の概要 …… 1

2．立会および確認調査概要

総社広域環境施設組合ごみ処理施設建設予定地内における確認調査 …… 7

岡山市民生活協同組合・店舗建設に伴う確認調査 …… 9

長野病院・特別養護老人ホーム建設に伴う確認調査 …… 10

神在幼稚園建て替え工事に伴う確認調査 …… 11

江崎地区農業集落排水事業処理施設建設に伴う確認調査 …… 12

三須ガソリンスタンド建設予定地の確認調査 …… 13

水島機械金属工業団地協同組合・
西団地拡張地区への連絡道路の橋梁工事に伴う確認調査 …… 14

鬼城山第1城門の門礎について …… 15

水島機械金属工業団地協同組合・（仮称）久代独身寮建設に伴う確認調査 …… 17

砂川公園キャンプ場整備事業 …… 18

高本－藤原北古墳群内の山土採取事業に伴う事前調査 …… 19

都市計画道路東総社中原線予定地内確認調査 …… 22

老人保健施設建設に伴う確認調査 …… 23

3．発掘調査概要

福井地内の山土採取事業および分譲宅地造成事業に伴う発掘調査 …… 25

福井新田地区小規模ほ場整備事業に伴う発掘調査 …… 28

小寺東区画整理事業に伴う発掘調査 …… 30

新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査1 …… 32

新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査2 …… 38

前川地区ほ場整備事業に伴う発掘調査 …… 42

三輪第2配水池築造・造成工事に伴う発掘調査 …… 47

図　　目　　次

第1図　立会・確認調査位置図1（1/50,000）… 5　　総社広域環境施設組合ごみ処理施設建設予定地内
第2図　立会・確認調査位置図2（1/50,000）… 6　　における確認調査

第３図　調査地位置図（S＝1/50,000）…… 7
第４図　トレンチ配置図（S＝1/2,000）…… 8
岡山市民生活協同組合・店舗建設に伴う確認調査
第５図　調査地周辺の地形図（S＝1/8,000）…… 9
長野病院・特別養護老人ホーム建設に伴う確認調査
第６図　調査地位置図およびトレンチ配置図（S＝1/5,000）…… 10
第７図　Ｔ－１南壁土層図（S＝1/20）…… 10
神在幼稚園建て替え工事に伴う確認調査
第８図　調査地位置図（S＝1/5,000）…… 11
江崎地区農業集落排水事業処理施設建設に伴う確認調査
第９図　調査地位置図（S＝1/5,000）…… 12
三須ガソリンスタンド建設予定地の確認調査
第10図　調査地周辺地形図（S＝1/5,000）…… 13
水島機械金属工業団地協同組合・西団地拡張地区への連絡道路の橋梁工事に伴う確認調査
第11図　調査地周辺の地形図（S＝1/8,000）…… 14
鬼城山第１城門の門礎について
第12図　鬼城山位置図（S＝1/10,000）…… 16
水島機械金属工業団地協同組合・（仮称）久代独身寮建設に伴う確認調査
第13図　確認調査位置図（S＝1/5,000）…… 17
砂川公園キャンプ場整備事業
第14図　砂川公園１号墳位置図（S＝1/5,000）…… 18
高本－藤原北古墳群内の山土採取事業に伴う事前調査
第15図　高本－藤原北古墳群ほか分布図（S＝1/10,000）…… 21
都市計画道路東総社中原線予定地内確認調査
第16図　トレンチ位置図　（S＝1/5,000）…… 22
老人保健施設建設に伴う確認調査
第17図　開発範囲およびトレンチ位置図（S＝1/5,000）…… 23
福井地内の山土採取事業および分譲宅地造成事業に伴う発掘調査
第18図　発掘調査位置図（S＝1/5,000）…… 25
第19図　福井大塚１号墳出土遺物（S＝1/1）… 27
福井新田地区小規模ほ場整備事業に伴う発掘調査
第20図　調査地位置図（S＝1/5,000）…… 28
小寺東区画整理事業に伴う発掘調査
第21図　調査区位置図（S＝1/5,000）…… 31
新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査１
第22図　調査区配置図（S＝1/3,000）…… 33
第23図　第５調査区遺構配置図（S＝1/600）…… 33
第24図　出土遺物（S＝1/4）…… 34
第25図　第5･6調査区遺構配置図（S＝1/800）… 35
第26図　横寺遺跡出土遺物（S＝1/2）…… 35
第27図　６区SK110出土遺物（S＝1/4）…… 36
新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査２
第28図　調査区配置図（S＝1/2,000）…… 38
第29図　１区遺構配置図（S＝1/600）…… 39
第30図　１区出土遺物（S＝1/4）…… 40
前川地区ほ場整備事業に伴う発掘調査
第31図　亀山下遺跡出土初期須恵器（S＝1/ 3）…… 45
第32図　亀山下遺跡・大文字遺跡出土初期須恵器（S＝1/3）…… 46
第33図　前川ほ場整備内遺跡分布図（S＝1/15,000）…… 46
三輪第２配水池築造・造成工事に伴う発掘調査
第34図　岩屋12～14号墳全体図（S＝1/400）…… 48
第35図　発掘調査位置図（S＝1/50,000）…… 50

表　目　次

表１　立会・確認調査一覧表 …… 3･4

図　版　目　次

総社広域環境施設組合ごみ処理施設建設予定地内における確認調査

第1図版　調査地遠景 …… 8

第2図版　住居址土器出土状況 …… 8

鬼城山第1城門の門礎について

第3図版　門礎石 …… 16

福井地内の山土採取事業および分譲宅地造成事業に伴う発掘調査

第4図版　山土採取事業地（左が大塚1号，右が大塚2号墳） …… 26

第5図版　調査後の大塚1・2号墳 …… 27

福井新田地区小規模ほ場整備事業に伴う発掘調査

第6図版　調査区全景 …… 29

第7図版　12号墳横穴式石室遺物出土状況 …… 29

新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査1

第8図版　横寺遺跡5区（真上から） …… 37

第9図版　横寺遺跡5・6区（真上から） …… 37

新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査2

第10図版　坊ケ内遺跡遠景（南から） …… 41

第11図版　坊ケ内遺跡（真上から） …… 41

前川地区ほ場整備事業に伴う発掘調査

第12図版　大文字遺跡出土子持ち勾玉 …… 45

第13図版　山屋敷遺跡出土鏡 …… 45

三輪山第2配水池築造・造成工事に伴う発掘調査

第14図版　土壙墓群全景（真上から） …… 48

1．総社市埋蔵文化財行政の概要

1993年度　文化財行政の概要

総社市の埋蔵文化財行政は，教育委員会社会教育課文化係が担当しており，埋蔵文化財担当職員７人，事務担当職員２人の計９人で構成されている。係では，埋蔵文化財のほか，文化財の保護・啓蒙及び，文化・芸術の振興等を執り行っている。

〈組織〉

教育長	浅沼　力	主事	武田　恭彰（調査担当）
教育次長	秋田　皓二	〃	前角　和夫（調査担当）
参事	村上　幸雄（調整担当）	〃	高橋　進一（調査担当）
社会教育課長	平田　定士	〃	平井　典子（調査担当）
文化係長	山西　賢一（庶務担当）	臨時職員	西平登代子（整理担当）
主任	荒木　泰行（庶務担当）		
〃	谷山　雅彦（調査担当）		
〃	高田　明人（調査担当）		

〔埋蔵文化財〕

本年度の発掘調査件数は７件にのぼり，延べ調査日数は約41ケ月である。内訳は公共事業であるほ場整備３件・区画整理１件・上水道貯水池築造１件と，民間開発の住宅団地造成とそれに伴う土採り各１件である。その成果については，別項に概要を記している。

また，確認申請があがってきたものに関しては，必要に応じて立会・確認調査を行ない，その成果を一覧表あるいは，立会・確認調査概要に記している。

総社市は，岡山市，倉敷市のベッドタウンとして住宅の需要が高まる中，大規模な住宅団地や個人住宅，共同住宅建設が増加している。さらに４月からの県立大学の開校に伴って，学生を対象にした共同住宅の新設も増えている。このような個人住宅，共同住宅に関しても，掘削が表土下層にまで及ぶものは，立会・確認調査を行なっている。現在までは遺構，遺物が明確に確認できた例はないが，今後遺構が確認された場合の対応が苦慮されるところである。

また本市では，ほ場整備は約31％終了しているにすぎない。現在，９カ年計画で行なわれれている新本ほ場整備のほか，新たに申請されるほ場整備により遺跡の調査が増加することは想像にかたくない。

このように調査に追われる中，報告書の刊行がとどこおっている。特に今年度は，服部収蔵庫の敷地内に，収蔵施設を主体とした「総社市埋蔵文化財学習の館」を建設するため，服部収

蔵庫を取り壊したことから，報告書の整理作業はほとんど進んでいない。また整理作業には，現在臨時職員１名があたっているが，雑事をこなしながらの整理作業で，その絶対量からみて１人では限界があり，整理・報告書作成体制が必ずしも十分であるとはいえない。

なお「総社市埋蔵文化財学習の館」は1994年３月に完成し，８月から開館している。

〔文化財保護・啓蒙〕

今年度特筆すべきこととしては，まず，1990年度から実施されていた国指定文化財備中国分寺五重塔の解体修理が完了し，1994年２月20日にその竣工式が行なわれたことである。吉備路のシンボルともいうべき五重塔が再びその姿を衆目の前に現したのである。

そしてもう１つは，1989・90年度にかけて行なわれた国指定史跡鬼城山の用地買収を受けて，史跡整備をするべく鬼山城整備委員会が発足したことである。基本構想を固め，来年度以降整備のための発掘調査を行なっていく予定である。

鬼城山整備委員会　（肩書は委嘱時）

委員長	坪井清足（財団法人　大阪文化財センター理事長）
副委員長	近藤義郎（岡山大学名誉教授）
委員	水内昌康（岡山県文化財保護審議委員）
	高橋　護（ノートルダム清心女子大学教授）
	河本　清（岡山県立博物館副館長）
	葛原克人（岡山県古代吉備文化財センター次長）
	高瀬要一（奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部計測修景調査室長）
オブザーバー	文化庁
	岡山県教育委員会文化課
	岡山県環境保健部自然保護課
	倉敷地方振興局森林課

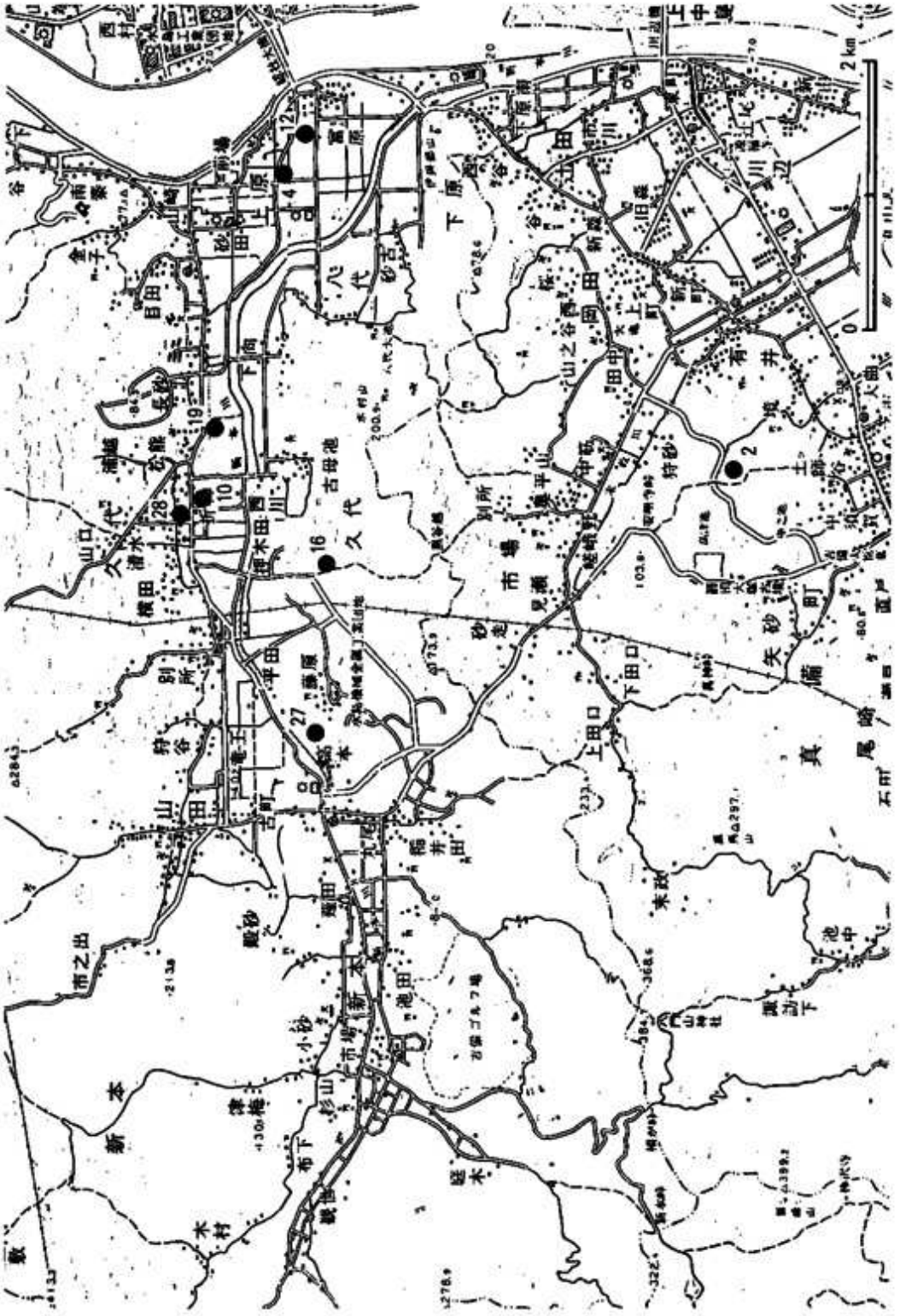
そのほか，市民の活用と遺構の保護のため，鬼城山，作山古墳，宮山古墳群，江崎古墳，秦原廃寺，栢寺廃寺等の下刈り・清掃を行なっている。（平　井）

表1　立会・確認調査一覧表

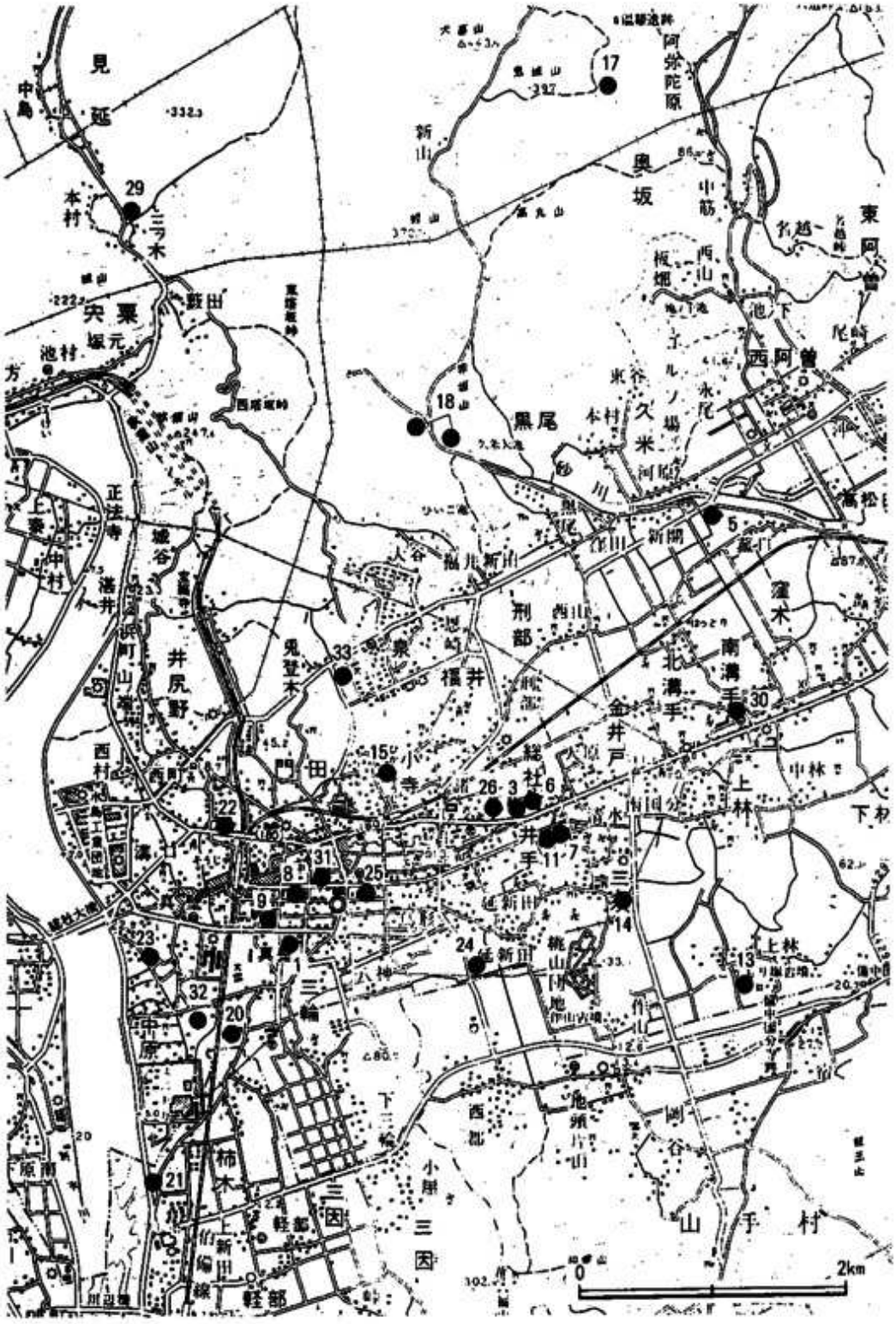
番号	所在地	調査原因等	種別	調査期間	調査所見
1	真壁神ケ市 660-6	住宅建設	立会	1993.4.9	旧耕作土下は砂質土層～砂礫層，遺構・遺物なし
2	吉備郡真備町箭田500-1外	㊀ゴミ処理施設建設	確認	4.13･27,5.19	別項報告参照
3	五反田 1366-4外	生活共同組合店舗建設	確認	4.23	別項報告参照
4	上原163	病院建設	立会	4.23	遺構・遺物なし
5	久米48-1	特別養護老人ホーム建設	確認	7.27	別項報告参照
6	井手談義所 1126-1外	共同住宅建設	立会	8.19	表土下砂礫層，遺構・遺物なし
7	井手村後 1052-1外	共同住宅建設	立会	8.23, 1994.1.12	微高地と思われる，遺構･遺物なし
8	中央1-4-103	地上げのため擁壁	不時	8.24	微高地，遺構・遺物なし
9	駅前2-17-102	共同住宅建設	立会	8.24	微高地？遺構なし，弥生土器，須恵器片あり
10	久代4582	㊀久代幼稚園	不時	8.27	遺構・遺物なし，砂礫層か？
11	井手字村後 1062-1	共同住宅建設	立会	9.2, 1994.1.20	微高地？遺構・遺物なし
12	富原422	㊀神在幼稚園新舎建設	確認	9.8	別項報告参照
13	上林897	㊀農業集落配水事業処理施設設置	確認	9.13	別項報告参照
14	三須1127-1外	ガソリンスタンド建設	確認	9.29	別項報告参照
15	小寺144外	㊀区画整理	確認	11.2	中島家周辺の確認，遺構あり，遺物なし
16	久代字黒谷 1303	㊀工業団地拡張地区への橋梁建設	立会	11.4	別項報告参照
17	奥坂 1762-617外	㊀鬼城山第1城門，門礎		11.15	別項報告参照
18	黒尾1200	㊀砂川公園の整備	立会	11.22	別項報告参照，横穴式石室，遺物なし
19	久代字鯉化ケ口4832-1	独身寮の建設	確認	11.25	別項報告参照
20	三輪821	㊀下水処理場	立会	11.29	造成により攪乱，遺構・遺物なし
21	中原121	㊀雨水ポンプ場外構工事	立会	11.29	遺構・遺物なし
22	門田361-1	共同住宅建設	立会	12.	微高地？遺構あり中世か？遺物なし
23	中原841外	共同住宅建設	立会	12.13	表土から50cm深さの改良，砂層，遺構・遺物なし

番号	所在地	調査原因等	種別	調査期間	調査所見
24	真壁212, 213	病院建設	不時	12.	矢板で土層不明，あがった土は砂主，遺物なし
25	中央240-1	共同住宅建設	立会	12.	表土，黄灰砂質土下に近世の川跡？遺物なし
26	総社1147	共同住宅建設	立会	12.27	微高地？遺構なし，須恵器片あり
27	久代2372-1外	採土事業	確認	1994. 1.25	別項報告参照
28	久代4386- 2	㊀総社西小学校中棟改築	立会	1.	現地のみ実見
29	南溝手277-1	㊀道路拡幅工事	立会	1.30	微高地？攪乱から須恵器・瓦，遺構なし
30	見延	植木の植え替え	立会	1.31	河岸段丘上，須恵器
31	中央2-5-8	商店建設	不時	2.15	表土下は微高地，遺構・遺物なし
32	中原405-1外	㊀都市計画道路建設	確認	3.17•18	別項報告参照
33	泉989外	老人保健施設建設	確認	3.29	別項報告参照，周辺に遺物散布

※ ㊀－公共事業



第１図　立会・確認調査位置図１（S＝1/50,000）



第２図　立会・確認調査位置図２（S＝1/50,000）

2．立会および確認調査概要

総社広域環境施設組合ごみ処理施設
建設予定地内における確認調査

所 在 地　吉備郡真備町箭田500－1　外115筆

調査期間　1993年4月13・27日・5月19日

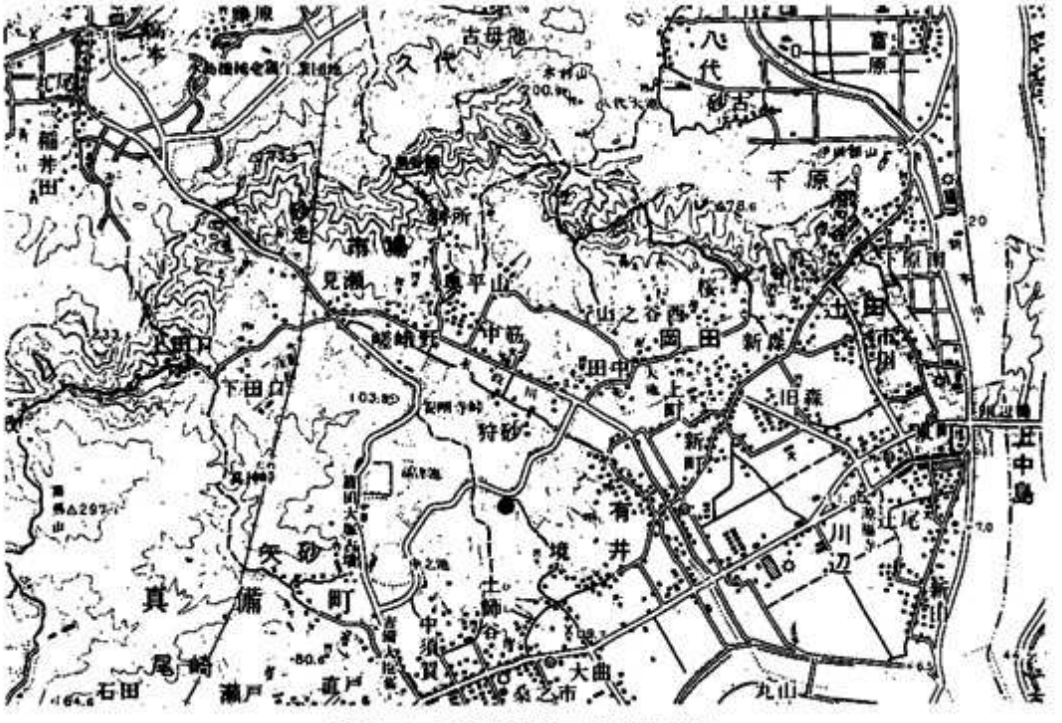
調査概要

（調査経過）

総社市では現在真備町，山手村，清音村とともに広域組合を設立し，ごみを共同処理している。現在の清掃工場は稼働後18年を経過し，老朽化並びにごみ量の増加により清掃工場の建設が真備町箭田に計画された。予定地は真備町のほぼ中央に位置し，小田川によって形成された沖積平野の北側の低丘陵上の約7.6haである。付近には遺跡も多く，西山遺跡から特殊器台が出土しており（平井勝他『西山遺跡』真備町教育委員会1979），本丘陵上にも遺跡の存在が予想された。総社市教育委員会では同組合の依頼を受け，1993年4月13日より埋蔵文化財の確認調査を実施した。

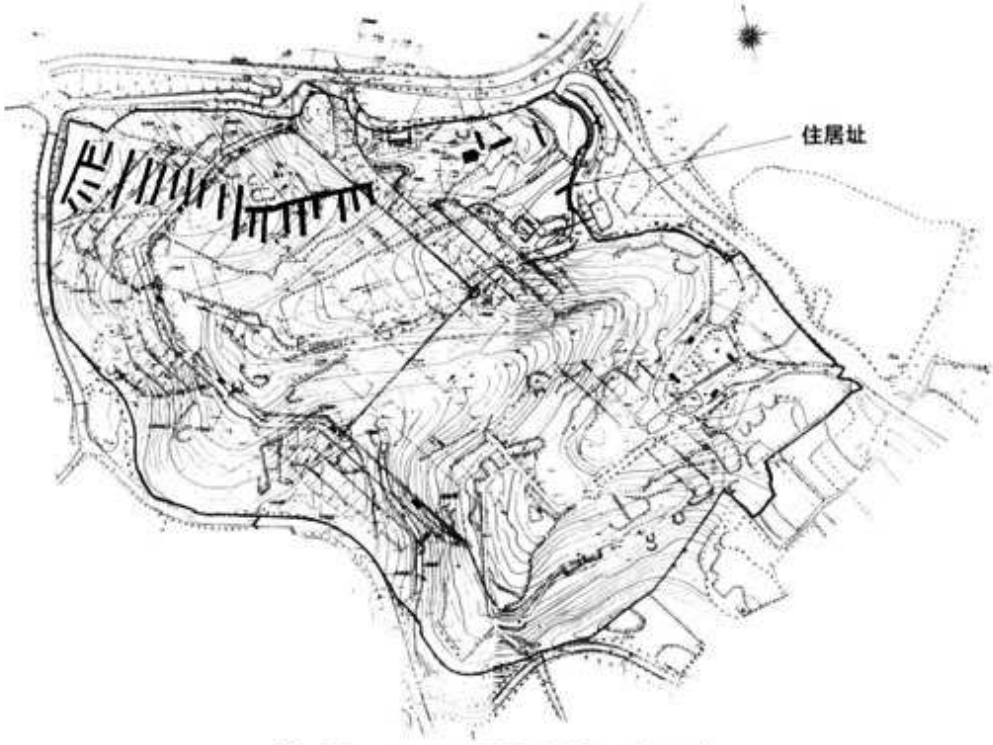
（遺構・遺物）

調査は重機によってトレンチを掘削して行った。その結果，北側の尾根上及び南斜面では厚



第3図　調査地位置図（1/50,000）

い客土によって覆われており，遺構・遺物は認められなかった。谷部では1.2mの厚さの客土の下から，住居址2棟を検出した。そのうち1棟からは土師器甕と須恵器高坏が出土した。遺物から6世紀後半と考えられる。伐開後，中央の尾根を踏査したが遺構・遺物ともに認められなかった。土器片等もまったく見られなかったことから当地に遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。南側の尾根及び住居址が検出された谷部は堆積土のみを除去し，掘削が及ばないため現状で保存することとした。　（高　橋）



第4図　トレンチ配置図（S＝1/2,000）

第1図版　調査地遠景

第2図版　住居址土器出土状況

岡山市民生活協同組合・店舗建設に伴う確認調査

所 在 地　総社市総社字五反田1366－4　外14筆

調査期間　1993年4月23日

調査概要

調査地は，国道180号線に隣接しており，一部が造成されている。バブル経済華やかなりし頃は，数社による住宅団地等の開発計画があったが，具体化せず，今日にいたっていた。

南，北ともに400mほど離れて旧河道があり，東方100mにも南流する旧河道らしい低位部がある。南，100mには，鎌倉時代後半期の集落跡の一部が検出された清水角遺跡（「総社市埋蔵文化財発掘調査報告1」・「総社市埋蔵文化財調査年報1」）が知られている。

このため，1993年3月30日に開催された総社市開発連絡調整会議において，確認調査の必要性を説き，調査を実施したものである。

調査は，水田として残っている二ケ所（T・1＝70m，T・2＝40m）を重機で掘削した。

T・1は，上層に水田層があり，地表下50cmで安定した面となるが，西端から10数mで下降している。東端も上層は水田層で，下層は湿地状となる。従って，東西方向についてみれば，安定した面は東に向かって下降傾斜した地形となる。遺構，遺物ともに検出されなかった。

T・2も基本的には同様で，西が高く，東へ向かって下降している。中位部に洪水層を挟み，上・下層とも砂質がT・1より強くなる。遺構，遺物ともにない。

以上の状況から，安定した面は北西から南東方向へのびると考えられ，東側は湿地状部となると判断された。

計画では，建物部分は湿地状を呈す地区に大半が収まるため，発掘調査は実施しないこととした。　（村　上）

第5図　調査地周辺の地形図（S＝1/8,000）

長野病院・特別養護老人ホーム建設に伴う確認調査

所 在 地　総社市久米48－1

調査期間　1993年7月27日

調査概要

長野病院が特別養護老人ホームを建設することになり，確認調査を実施した。

本調査地は砂川の南側にあたり，調査地から東，南，西に向かって地形は下がっている。

調査は，南半の駐車場予定地に，重機によって6本のトレンチを設定した。

各トレンチの層序は，T－1南壁の土層図とほぼ同様で，全体にグライ化している。西にいくにしたがい，耕土は薄くなり，砂層（2層）が厚くなる。T－6にいたっては耕土がなく，この付近が最も高くなっている。T－3の6層中より土器片が1点出土した。周囲を精査してみたが，他の遺物や遺構は全くなく，出土した土器も磨耗が著しいことから，流れ込みと思われる。

周辺の水田からも，遺物は全く表採できなかった。また，全体にグライ化が進行していることから，この周辺一帯は低湿地であったものと思われる。　（平　井）

第6図　調査地位置図および
トレンチ配置図（S＝1/5,000）

第7図　T－1南壁土層図
（S＝1/20）

神在幼稚園建て替え工事に伴う確認調査

所 在 地　総社市富原422

調査期間　1993年9月8日

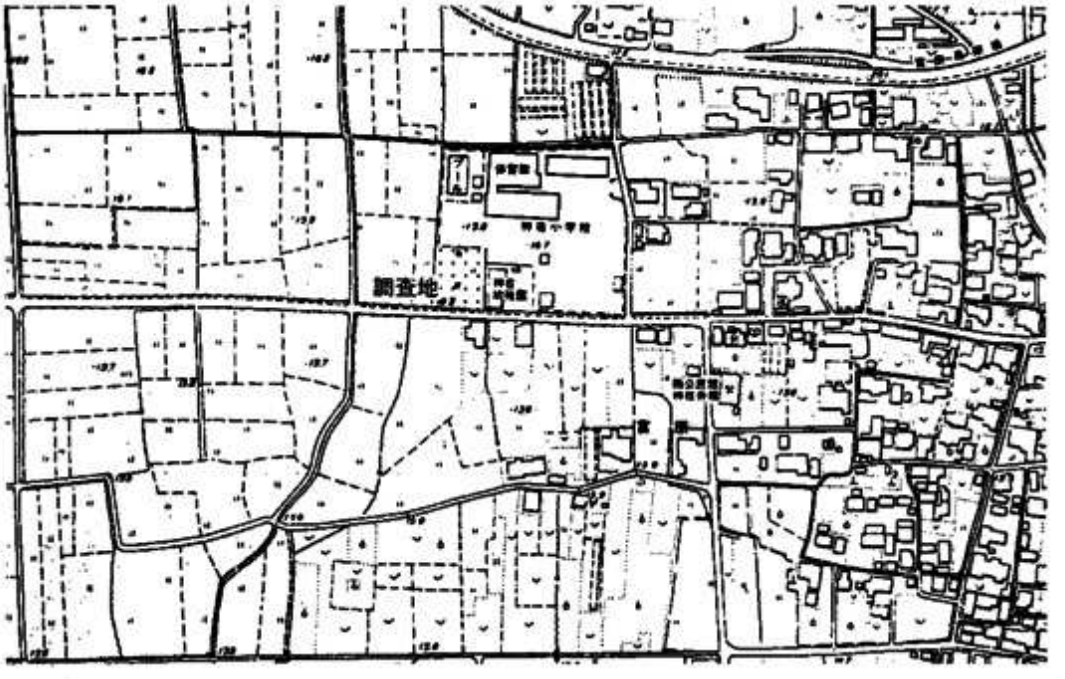
調査概要

本調査地は、高梁川右岸に位置し総社大橋から西に向かう西部縦貫道の南にあたる。富原集落の西端に位置する。この地では神在小学校のプールを建設するのに伴い立会調査を実施している。この時は、安定した微高地の面まで重機で掘削し遺構の有無を確かめた。現集落の近隣であり微高地上であることから、遺跡が存在する可能性が考えられた。調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

現幼稚園は耐用年数を迎えるため不適格建物になる。そのため現敷地の西に用地をもとめ新たに幼稚園舎を建設することになった。

確認調査は、用地の北よりと南よりに1カ所づつトレンチを設定して行った。トレンチは1×1mである。両トレンチとも土層に大きな差は無い。表土下は灰色・黄色砂質土がありその下層に中世と考えられる小土器片を僅かに含む灰白砂質土が認められる。しかし、その包含層の下層には遺物は認められず、また遺構も検出できなかった。以上の状況から今回調査を実施した地域では安定した微高地が認められるが、遺跡からはやや離れた場所と考えられる。

（谷　山）



第8図　調査地位置図（S＝1/5,000）

江崎地区農業集落排水事業処理施設建設に伴う確認調査

所 在 地　総社市上林897

調査期間　1993年9月13日

調査概要

農業集落排水事業ポンプ場が計画されたので，重機による確認調査を実施した。

備中国分寺五重塔のほぼ西に位置し，丘陵の張出が考えられたので，東西方向にトレンチを設定した。調査の結果，水田耕土下には，さほど古くない水田面があり，その下は灰色ないし黄褐色の粘土となる。遺構・遺物は認められなかった。この状況から，おそらく近世以降に水田となるまで手がつけられなかったことが考えられる。

また，この一帯は，1982年に，ほ場整備事業に伴う確認調査の際にも丘陵上の一部で，小規模の集落跡を認めたにとどまり，この水田部分の一帯はかなり遅い時期まで湿地状を呈していたことが予想される（「山津田遺跡」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告1』1984）。

したがって，現在の作山古墳から備中国分寺の西側にかけては，かつては一面に葦などが茂った湿地で，水田を中心とした農村の景観は，かなり時期がくだってからのものかもしれない。

（高　田）

第9図　調査地位置図（S＝1/5,000）

三須ガソリンスタンド建設予定地の確認調査

遺 跡 名　中須賀遺跡

所 在 地　総社市三須1127－1外

調査期間　1993年9月29日

調査概要

国道429号線に昇格予定の路線の沿線でガソリンスタンドの建設計画があるということで開発業者から事前に連絡があったため，確認調査を実施した。ここは，1991年に発掘調査が行われた三須畠田遺跡に近接しており，丘陵の張り出した先端近くにあたることから遺跡の存在が想定されていた（武田恭彰「三須畠田遺跡」『総社市埋蔵文化財調査年報』2 1993）。また，この丘陵の張出しの南側では，観光センターが平成元年に計画された際の確認調査で丘陵に近い部分に天馬遺跡・野宮遺跡が存在することが確かめられている。

確認調査は，用地の一部にまだ稲が残っていたため，長さ5m・幅50cmのトレンチをタンク等が設置される予定の用地内南寄りに設定した。水田耕土下にはすぐに褐色を呈する安定した基盤層が現われ，土壙状の暗褐色土の落ち込みの一部が認められた。とりあえず，遺構の存在することが確認され，密度の疎密は別にして遺跡であることは間違いないので，周知の遺跡としての取扱をすることとし，開発関係の手続きの進行にあわせて発掘調査を実施する予定にしている。

（高　田）

第10図　調査地周辺地形図（S＝1/5,000）

水島機械金属工業団地協同組合・西団地拡張地区への連絡道路の橋梁工事に伴う確認調査

調 査 地　総社市久代字黒谷1303

調査期間　1993年11月4日

調査概要

自動車部品製造を主業務とする水島機械金属工業団地協同組合は，1966年高梁川左岸堤防東隣に誘致，操業が開始（東団地）された。その後，自動車産業の進展とともに業容を拡大したが，施設が狭隘となったため，高梁川支流の新本川右岸の丘陵一帯約80haに新たな団地（西団地）を建設し，1990年5月から操業が始められた（この間の経緯については，「水島機械金属工業団地協同組合　西団地内遺跡群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』9　を参照されたい）。こうして市内最大の工場群が誕生した。

そして，その後の経済不況にもかかわらず，この組合は好況を持続し，1992年頃から，西団地の東隣約10haを対象に，拡張計画が出され，現在各種の調整，申請が進行中である。

文化財については，これまでのところ，古墳・窯跡・中世骨蔵器が出土しており，さらに集落跡や製鉄遺跡の存在も推定されている（「水島機械金属工業団地協同組合西団地の拡張に伴う遺跡分布調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』3　を参照）。

今回の調査は，現西団地からの連絡道路となる橋梁工事に伴うもので，橋梁基礎部（12×4m）を対象とした。確認調査は，重機でトレンチを掘削して土層を観察した。基本的な土層は山砂の堆積土層で，1～4層までは軟質，5層は硬質で基盤層となる。

遺構，遺物ともに検出されなかった。

調査地点は，黒谷川の小扇状地の扇頂部に近い部分であり，トレンチの土層の状況からみても，周辺部にも遺構の存在する可能性は，かなり弱いものと思われる。（村上）

第11図　調査地周辺の地形図（S＝1/8,000）

鬼城山第１城門の門礎について

所　在　地　総社市奥坂1762－６・７外

調査期間　1993年11月15日

調査の経過

国指定史跡鬼城山は，1986年３月25日に指定され，1989・90年度で土地の公有化を完了した。1993年３月22日には，国指定史跡鬼城山整備委員会設置要領を施行し７名の委員を委嘱し，文化庁・岡山県の指導を得ながら整備の実現に向けて検討を行っている。

第１回整備委員会は，1993年７月22日に開催したが，席上委員の高橋護氏（ノートルダム清心女子大学教授）から石垣の一部に早急に補修等を要する箇所があるとの指摘があり，それをうけて現地での調査を11月15日に行った。その際に従来正面からの入口と考えられてきた第１城門跡の傍らに露出していた石材の一部に，掘立柱の門柱を支えるために抉りを施していることが認められた。また，方立及び門礎の窪みもあり，これが門の遺構にともなうものであることがわかった。さらにこの石材は下部の土が流出したために，斜面に横たわっているが，門柱の抉り込みの部分で折れており，その残りが土砂に埋まっていることがわかった。

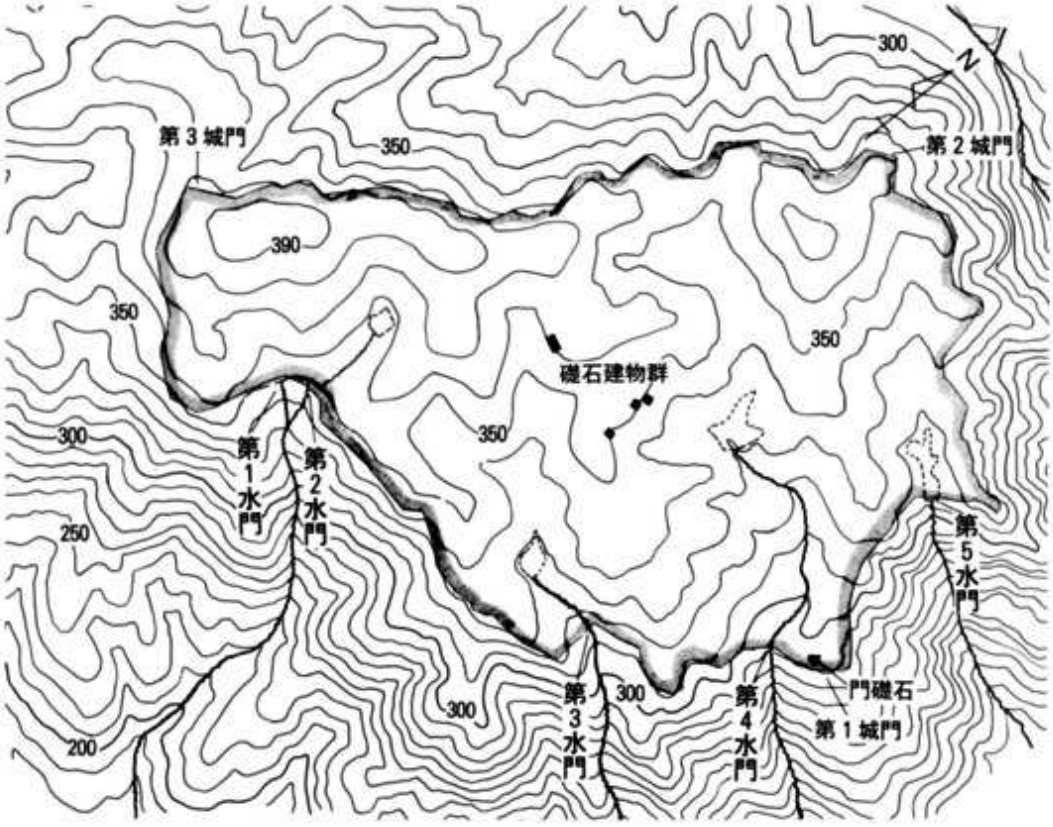
1994年２月３日には，第２回鬼城山整備委員会が開催され，当面３ヵ年で現況調査を行うという方針で臨むことになり，その一環としてこの門礎石発見をふまえて第１城門跡で将来整備を行うための基礎資料を得るための発掘調査を実施することが承認され，1994年度中に発掘調査に着手する予定である。

この石材はほぼ三角形を呈し，現存する長さ約170cm・厚さ42cmである。石材は花崗岩で，上面を平滑に整え，正面向かって右側（東側）の部分に門柱・方立・門礎の加工が施される。門柱は掘立柱を据えるための刳りこみから，直径50cmほどと推定される。方立は周囲が剥落しているが，20×10cm，深さ５cmほどである。門礎は，扉の軸受けの部分で，上面で一辺約16cmの隅がまるみを帯びた方形で，深さは約16cmを計る。

同様の形態の唐居敷（からいしき）と呼ばれる門礎石は福岡県大野城太宰府口城門第Ⅰ期（横田賢次郎「大野城の城門」『考古学ジャーナル 369号』1993）などにあるが，これは７世紀後半代の時期が考えられているものである。

詳細については発掘調査を行ったうえで検討しなければならないが鬼城山の築造時期を考えるうえで重要な資料である。

また，第１城門跡以外の石垣の石材の抜けや，土砂の流出によって石垣が崩壊するおそれのある部分については，応急的に石を詰めたり，土のうを敷くなどの方法により簡単な補修を行ったが，これらは今後整備の実施にあわせて本格的な補修工事が必要であろう。　（高　田）



第12図　鬼城山位置図（S＝1/10,000）

検出状況

加工部分

第 3 図版　門磯石

水島機械金属工業団地協同組合・
（仮称）久代独身寮建設に伴う確認調査

所 在 地　総社市久代字鯉化ヶ口4832－1

調査期間　1993年11月25日

調査概要

調査場所は，新本川左岸で横口式石棺をもつ長砂２号墳の存在する丘陵の先端近くである。建設予定地と丘陵との間にはハザ谷川が流れている。

現在三輪にある独身寮が，都市計画道路建設に伴い久代に移転することになった。そのため，交通の便などからこの地が選定された。

調査は，調査地が既に造成が行われていることから，重機を使用し建設される建物に添う方向にトレンチを６本設定し行った。トレンチの規模は，1.5m×４～５ｍである。盛土は，70～100cmあり下層はグライ化していた。最も安定した層と考えられる茶褐色粘質土層は西から東に下がっていた。遺物はこの層の上層である青白色砂質土の上部から極少量の土器片が出土している。

調査の結果，この地は東に僅かに傾斜し，当初想定された用地北の尾根から派生する高まりは認められなかった。北を流れるハザ谷川が現在より南寄りに存在した時期があったと考えられる。

（谷　山）

第13図　確認調査位置図（S＝1/5,000）

砂川公園キャンプ場整備事業

遺 跡 名　砂川公園１号墳

所 在 地　総社市黒尾1200

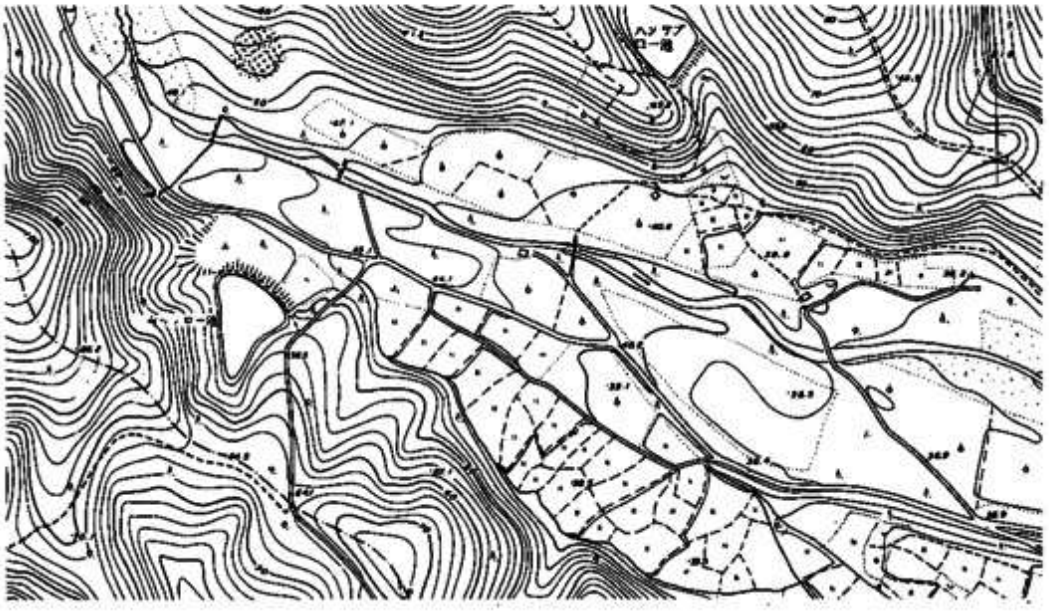
調査年月日　1993年11月22日

概　　要

総社市街から北東約５㎞の砂川（通称天井川）の一帯で1992年から，環境整備事業が行われている。この古墳は，砂川の左岸の緩斜面に立地し，南西に向けて開口する横穴式石室を主体部とする。工事に先立って，伐開を行った際に発見され，事業課から連絡があり，現地で概況について，計測等を行った。しかし，この古墳については，一部法面の整形程度の工事にとどめるということであったので，法面が周溝にかからないように注意してもらうよう指示したことと，キャンプ場という性格上，開口している石室内にはいって内部を掘られる恐れもあるので，古墳であることがわかるような状態で，しかも石室内に入れないように入口を閉鎖してもらうように指示するにとどめた。とりあえず，現状での保存がはかられたのは幸いであった。

古墳は円墳で，墳丘の直径約 14m・高さは１m，山側の周溝の幅は２mほどの規模である。石室は無袖で，末端が埋まっている可能性があるが，残存する長さ7.5m，奥壁幅1.3m，高さ1.2mをはかる。天井石は５枚が残っている。

出土遺物はなく，詳しい時期は不明である。　（高　田）



第14図　砂川公園１号墳位置図（S＝1/5,000）

高本－藤原北古墳群内の山土採取事業に伴う事前調査

遺跡名　高本－藤原北古墳群

所在地　総社市久代2372－1外

調査期間　1994年1月25日

調査面積　4872㎡

調査概要

調査経緯

総社市内における土砂採取事業は，市内の各所で行われているが，とくに新本・久代・山田の大字境となる丘陵上に集中している。この丘陵は，南西から北東方向にのびる長さ1.5・幅0.5km，最高所の標高101.1mを測る独立丘陵である。

今回の土砂採取事業は，その範囲拡張にともなうもので，この独立丘陵を3分した，その東部北斜面においてすでに5haにおよぶ範囲の土砂採取が進行し，さらに尾根線をまたいだ南斜面にかかろうとするものである。しかも，ここで採取される花崗岩風化土，いわゆるマサ土はとくに良質であることから，総社市で法的規制の整備される1973年以前より事業の進められていた地点である。これ以降，今回の西隣となる地点で約3ha，北東約300mの地点で約5haの土砂採取事業等が進行している。

1993年9月，総社市開発行為取扱要綱にもとづいた申請が提出された。これにともない同年10月より埋蔵文化財の保存協議が始まった。すでに開発予定地内には周知の古墳が4基あることから，開発にともなっては発掘調査が必要であること，また，これ以外にも遺跡が存在する可能性があることから，伐採が終了した段階で分布調査を行い，その結果をもとに調査期間等に関する調整を行うこととした。

調査は，1994年1月25日に行った。

調査結果

分布調査は，伐採が終了したのちに実施している。調査の結果，今回の範囲拡張内において周知の古墳3基を確認し，残る1基についてはこれまでよりやや北に位置することが確認されたことから，範囲外となった。この周知古墳3基のうち，2基は直径10m前後の小円墳，一番西に位置する1基が南に造り出しをもつ帆立て貝あるいは前方後円墳と推定されていたものである。しかし，造り出しの部分は範囲外となっており，伐採がなされてないことから，確実に前方部があるかどうかは確認できず，また造り出しの存在自体が疑問である。

このほかには，人工的な切り通しとそれにともなうようなわずかな平坦面が認められた。これについては標高80mを越える位置になり，この南西約140mのところには標高70mほどの位

置になる通称「ふじわらんだわ」があって，しかもごく最近まで道として利用されていたことを考えると，今回の切り通しが道であったとは決めがたいが，この近くに入り込むやや幅広の谷が認められることから，ふじわらんだわへ迂回せずに行ける峠道であった可能性もあるだろう。

さらに，これまでの周辺での発掘調査状況[註]から，製鉄関連の遺跡の存在や，古墳が築かれる以前の遺跡の存在が予想されるところである。まず，製鉄関連としては製鉄炉および炭窯の築かれている可能性を調査したが，範囲内の南東斜面の傾斜は非常にきつく，しかも，それぞれの作業場が埋もれているような不自然な窪みは確認できなかった。おそらく，製鉄関連の遺跡は存在しないものと断定できよう。また，古墳の築かれる以前の遺跡に関しては，集落あるいは墓地等の存在する可能性をうたがったが，丘陵尾根線の平坦状の広がりはかなりせまく，しかも，これに続く尾根線にも，北東方向で広くなるところもなく，南西方向でふじわらんだわにより分断されていることから，この点についてもまったく遺跡が存在しないものと断定できよう。

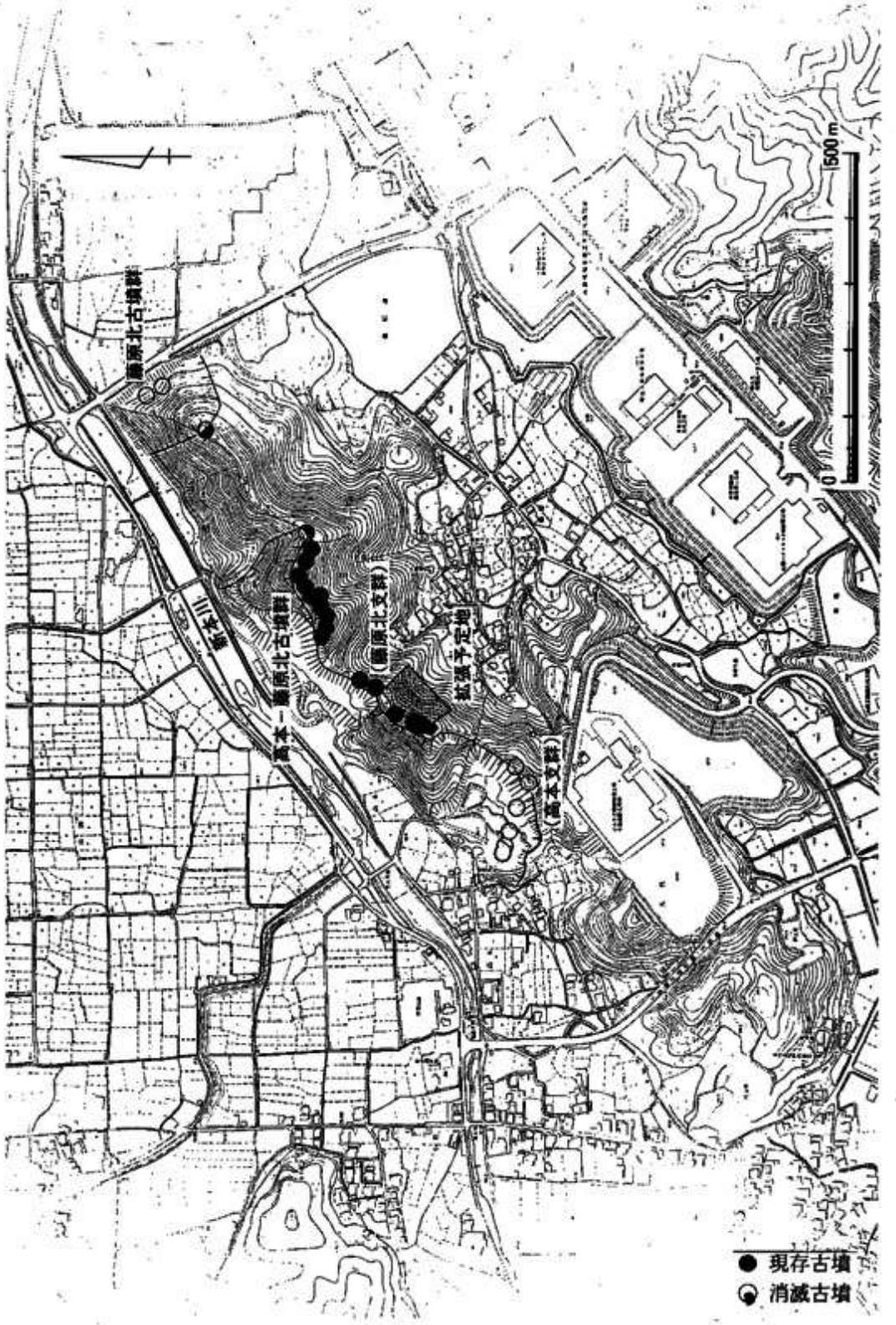
ま と め

以上のように，周知の古墳3基のほかには遺跡が存在しないものと推定された。今回の分布調査では遺物の採集がまったくなかったことから，古墳の築造時期を限定できないが，周辺での発掘調査状況や，古墳の立地などから，前期古墳になることはまちがいないであろう。内部主体についても，木棺直葬か箱式石棺が予想される。

また，帆立貝か前方後円墳かと推定される古墳については，新本川流域における前方後円墳の立地がすべて左岸になることから推定すると，円墳となる可能性が非常に高いのではないだろうか。しかし，今後の発掘調査においては，開発の範囲外でもあり，地権者も異なることを勘案すれば，保存対象になるものである。しかしながら，すでにこの古墳の南側数m近くまで別の業者による土砂採取が進んでいることから，ここで現状保存とすることはほんのわずかな島状で残すことになり，将来調査を行うにしても50mを越すガケで，危険な状況になることから調査は不可能であろう。そこで，調査範囲を広げて実施する必要があるのではないかろうか。

なお，今回の範囲外において，一部の尾根線でも伐採がなされたことから，あわせて分布調査を行い，4基の新規古墳の発見と，周知古墳の位置修正ができた。新規古墳はいずれも10m前後の円墳である。また，これまで方墳の可能性を指摘されていた周知古墳2基については円墳となる可能性が非常に高いことも確認できた。　　（前　角）

註　総社市教育委員会『高本古墳群』（『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』3，1986）
〃　『水島機械金属工業団地協同組合西団地内遺跡群』（『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』9，1991）
〃　『高本古墳群Ⅱ』（近刊予定）



第15図　高本－藤原北古墳群ほか分布図（S＝1/10,000）

都市計画道路東総社中原線予定地内確認調査

所　在　地　総社市中原405－1 外

調査期間　1994年3月17・18日

調査の概要

現在一部が供用されている市道東総社中原線（幅員22m）は，今後は区画整理事業にあわせて整備される予定であるが，ＪＲ伯備線の線路の下を通って交差する部分より西については，高梁川堤防まで都市計画事業として用地買収が完了し，1995年度で施工されることになったため，事前に埋蔵文化財の確認調査を実施した。

調査は，バックホウを使用し，９本のトレンチを掘削した。

その結果，全体的な傾向として，水田耕土下には厚さ30～60cmほどの砂層があり，その下は円礫層や砂利混じりの円礫層となることが判明した。遺物は認められない。礫層は少なくとも２m以上は堆積しており，拳大から人頭大のものを含み，この下部に遺構の存在する可能性はないと思われる。

周辺の状況を見ると，現在の常盤幼稚園の南の部分に土手状のたかまりがあり，祠が建てられているがこれはもとの高梁川の堤防であったといわれる。今回検出された礫層や砂利層は，このあたりが，幾度となく水害にみまわれたことを示しているようである。なお，今回調査を行った範囲から西の現在の高梁川の堤防にまでいたる範囲については，工事が計画された段階で確認調査を実施する予定である。　（高　田）

第16図　トレンチ位置図（S＝1/5,000）

老人保健施設建設に伴う確認調査

所　在　地　総社市泉989外

調査期間　1994年3月29日

調査の概要

市内の病院が，新たに老人を対象としたデイサービスのための施設の建設を計画したので，事前に埋蔵文化財の確認調査を実施した。

場所は総社市役所から北に1.5kmの，泉団地の西側に位置する。地形的には，二方に丘陵があり，ゆるやかに傾斜した窪地状と見ることができる。現状は水田であるが，一部は残土の置場となっている。

調査は，建物の建設を予定している用地北半部について，バックホウを使用してトレンチの掘削を行った。トレンチ1は，用地東端部に設定した。水田下に厚さ10cmほどの黄色土層があり，その下は，花崗岩質の硬質な岩盤で，遺物包含層や遺構遺物は見られなかった。

トレンチ2は，北西隅の位置であるが，状況はトレンチ1と同様であった。

以上のことから，当該地については，丘陵の末端の斜面部であるが，谷の出口に近い位置にあったために，谷からの流れによって，削られたことも考えられる。

遺跡はさらに南東の小寺の集落や，付近の丘陵上などに想定できるのではなかろうかと思われる。　（高　田）

第17図　開発範囲及びトレンチ位置図（S＝1/5,000）

3. 発掘調査概要

福井地内の山土採取事業および分譲宅地造成事業に伴う発掘調査

遺跡名　福井大塚古墳群

所在地　総社市福井

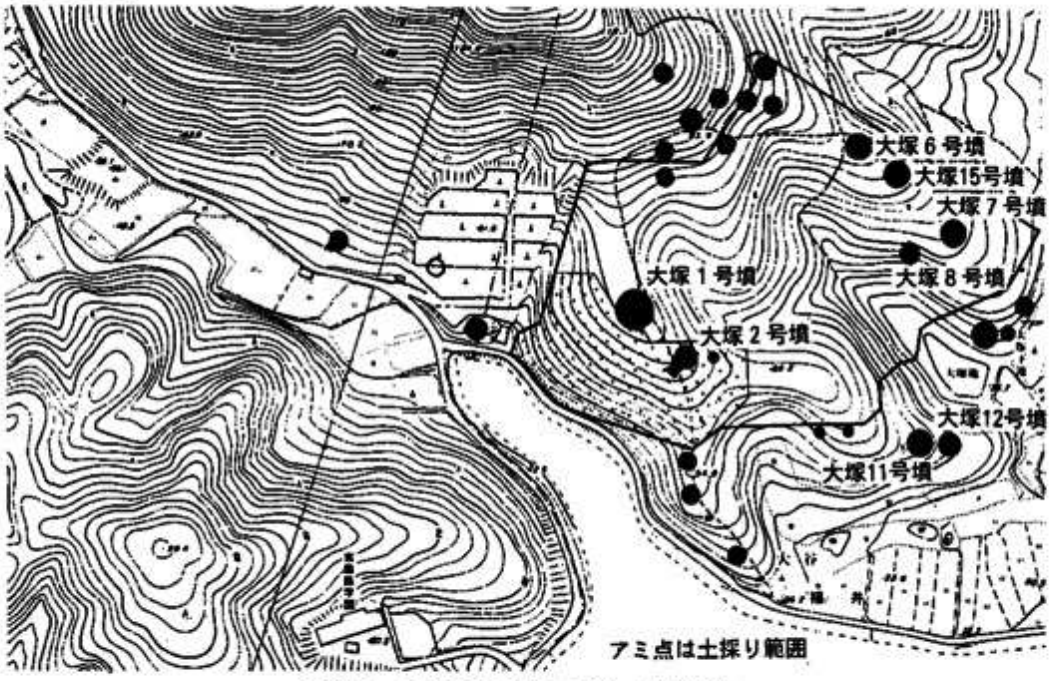
調査期間　1993年1月18日～1994年9月30日　　1993年11月22日～1994年3月31日

調査面積　3,000㎡

調査概要

今回発掘調査を実施した福井大塚古墳群は，市街地の北方に位置し1975年頃開発された泉団地に近接する。古墳群の所在する尾根は標高70m級の低丘陵二つからなる。この地では1988年に墓地造成が行われ，3基からなる青谷川古墳群の内1基が発掘調査された。この丘陵周辺では，先の青谷川古墳群と大谷古墳群4基が県遺跡地図に記載されていた。市教育委員会では墓地造成工事に先立ち周辺の分布調査を実施し，大谷古墳群内で新たに4基の古墳を発見した。

その後，泉団地の北にグランドを中心とした北公園が計画され周辺整備が進められた。その後，先の墓地造成地に接する6haが民間開発による分譲宅地造成地の候補地になった。計画段階では，大谷古墳群8基と土器散布地1カ所が知られていた。計画が具体化した段階で，再度分布調査を市教育委員会で実施した。この時，対象地域の小字が大塚であることや古墳の数が増加し以前に発見されていた古墳との照合が困難であることから大塚古墳群として呼称することとした。



第18図　発掘調査位置図（S＝1/5,000）

発掘調査は，分譲宅地造成に先立ち用地入り口部分の山土採取事業地から開始されることになった。

(1) 山土採取事業に伴う発掘調査

山土採取事業では，開発予定地内に古墳が3基含まれた。この古墳はいずれも尾根の稜線上にありまた，開発区入り口に当たることから現状保存することは計画上不可能であった。北の尾根から舌状に延びる丘陵の頂部に1号墳があり，やや尾根を下りやがてその尾根が二股に分かれる付け根に2号墳が位置する。13号墳は，2号墳から東に延びる尾根に位置する。この古墳は調査の結果，主体部を検出できなかった。

1号墳は，全長約12mの横穴式石室をもつ径約26mの二段築成の円墳である。玄室幅2.2m，玄室長5.5m，羨道幅1.36～0.67mである。石室内部は高温で熱せられたため赤く変色していた。床面では礫敷の上で炭と人骨が認められた。県内では初の石室内での焼葬の例と考えられる。

出土遺物は，石室内外で須恵器・土師器が多く出土し，周溝を中心に埴輪片が多量に出土した。埴輪には人物・家形などの形象埴輪が含まれている。遺物の中には熱で融着したガラス小玉がある。また，青銅製の飾り金具と考えられるものも出土している。出土遺物から6世紀後半の築造と考えられる。

2号墳は，全長7.25mの横穴式石室をもつ墳長約22mの前方後円墳である。石室の玄室幅1.8m，玄室長さ3.77m，羨道幅0.85mである。石室内は一部盗掘を受けていたが，ほぼ1棺分の釘が現位置で出土した。石室外から鍔などに銀象眼をほどこした大刀が出土している。1号

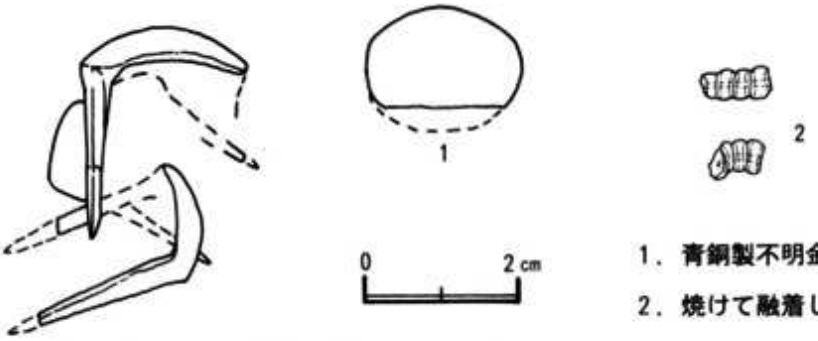
第4図版　山土採取事業地（左が大塚1号，右が大塚2号墳）

墳との先後関係は未整理のため明らかにできないが2号墳も6世紀後半の築造と考えられる。

(2) 分譲宅地造成事業に伴う発掘調査

分譲宅地造成地内には当初古墳が5基と製鉄遺跡が知られていた。調査のため立木の伐採が行われこの時に，6号墳と7号墳の間で15号墳が発見された。また，用地北端近くで小規模の古墳が7基発見された，このうち4基は用地外で現状保存された。

本年度中では，7・8号墳が調査の中心となった。7号墳は，径15mの円墳で全長7.22m，玄室幅は1.45mの横穴式石室をもつ。8号墳は，径8mの円墳で全長4.5m，玄室幅1.0mの横穴式石室をもつ。築造時期は，6・7・15号墳が6世紀後半で，8号墳は出土遺物が無いがこれらより少し下る時期の築造と考えられる。 (谷 山)



1．青銅製不明金具

2．焼けて融着したガラス小玉

第19図 福井大塚1号墳出土遺物（S＝1/1）

第5図版 調査後の大塚1・2号墳

福井新田地区小規模ほ場整備事業に伴う発掘調査

遺 跡 名　福井大塚11・12・14・16号墳

所 在 地　総社市福井1593－1外

調査期間　1993年8月23日～11月26日

調査面積　3,500㎡

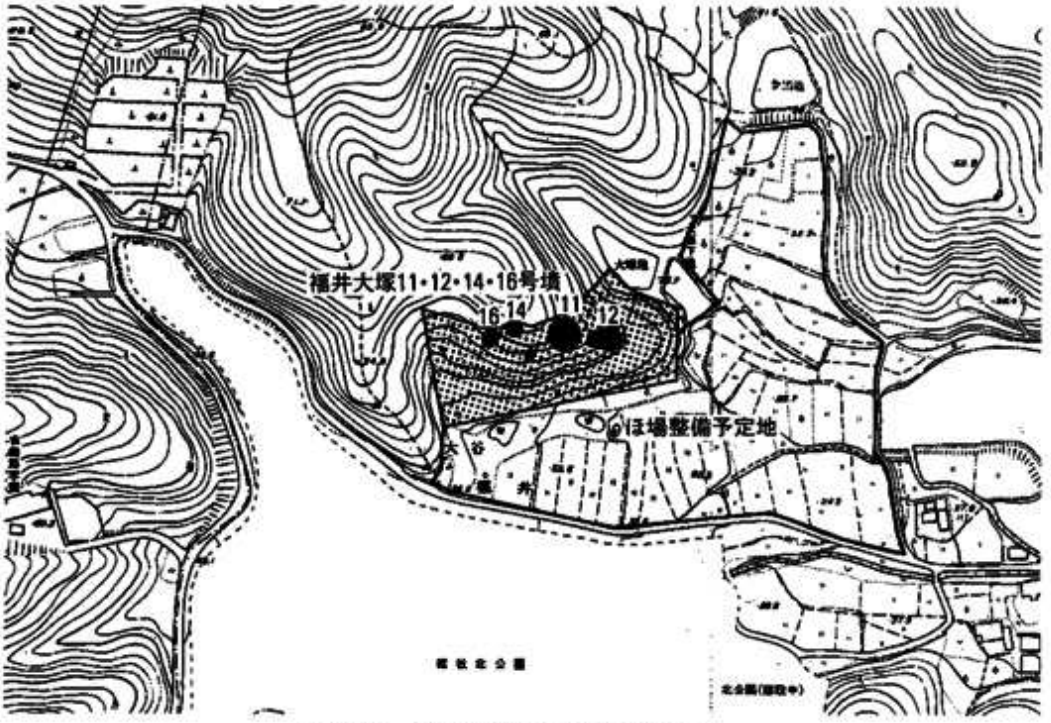
調査概要

（調査経過）

本調査は，福井新田地区に計画された小規模ほ場整備事業に伴う事前の発掘調査である。調査地は，小さく舌状に東へ延びる尾根の稜線上から南斜面に位置している。調査前より尾根の稜線上に位置する直径15m前後の11・12号墳が知られていた。斜面の中ほどから谷にかけては重機によって確認のトレンチをいれたが，他の遺構等は確認出来なかった。また調査の進行に伴って小規模な14・16号墳，火葬墓と考えられる石囲が検出され，調査を行った。

（遺構・遺物）

11号墳は径約17mの円墳で，山側に幅約7mの周溝をめぐらせている。横穴式石室は全長約10m，玄室長約5.5m，奥壁幅1.9m，残存高約2mのやや細長い形態を呈している。石室内からは蓋坏・高坏・短頸壺・長頸壺・亀・提瓶などの須恵器30点以上，刀1・釘・鏃などの鉄



第20図　調査地位置図（S＝1/5,000）

器が出土している。また石室の再利用が行われており，土師器坏・須恵器高台付の坏・蓋付坏・長頸壺及び銅鈴が出土している。ほかに埋土中から九連坏付装飾器台の破片が出土している。

12号墳は，全長13mの帆立貝式前方後円墳に近い形を呈している。円丘部には円筒埴輪が巡らされ，横穴式石室が築かれている。また方形部にも竪穴式石室が築かれていた。横穴式石室は，全長5.5m，玄室長2.8m，最大幅1.6m，残存高1.5mを測る。床面は板石・円礫敷で，須恵器は蓋坏・脚付長頸壺・甕・装飾器台・七連坏付器台・鈴入甕・赤色顔料の容れられた短頸壺・把手付きの鍋など50点前後が出土し，土師器は高坏が出土した。鉄器は刀2・轡・鏃・刀子・釘が出土しており，排土中から鋲留め金具の破片が出土している。その他碧玉製八角管玉・管玉・水晶製切子玉・ガラス小玉等の玉類も出土している。竪穴式石室は，全長2.1m，最大幅0.65m，高さ0.8mを測る。床面は角礫敷きで，副装品として須恵器蓋坏・壺，またガラス製管玉・碧玉製管玉が出土した。須恵器蓋1点には内部に赤色顔料が容れられていた。

14号墳・16号墳は小規模な横穴式石室で，墳丘盛土は残っておらず，最終末の古墳と考えられる。14号墳は石室全長1.8m，幅0.5m，高さ0.6mを測る。石室内からは棺台石のほか須恵器坏・平瓶・鉄釘・鉄滓が出土した。16号墳は石室全長1.2m，幅0.4m，高さ0.4mを測る。床面には角礫が敷かれていた。付近から完形の須恵器坏1が採集された。また0.9m×0.6mの長方形の石囲が検出されており，遺物は出土しなかったが火葬墓と考えられる。

（まとめ）

以上のように6世紀後半から古代にかけての合計が5基の遺構の調査を行った。当初の予想に比して11・12号墳ともに，大きな横穴式石室を内蔵しており，特に12号墳は古式の横穴式石室であることが判明した。また本古墳群には小規模ではあるが前方後円墳も存在しており，また東約1kmには，初期須恵器窯跡も存在している。今回の調査は本古墳群の性格を考える上で重要な資料になると考えられる。（高　橋）

第6図版　調査区全景

第7図版　12号墳横穴式石室遺物出土状況

小寺東区画整理事業に伴う発掘調査

遺 跡 名　広峰遺跡・宮後遺跡

所 在 地　総社市福井38－1外

調査期間　1993年3月1日～7月9日

調査面積　4200㎡

調査概要

（調査経緯）

組合施工の区画整理事業が計画され，その中で幅員12mの幹線道路部分について発掘調査を実施した。場所は，ＪＲ吉備線東総社駅から北の12haの範囲で，隣接する小寺と福井の集落にはさまれた，水田地帯である。

調査区は北から順に1区2区……としたが，1区の北端の水路に接するところは重機で表土を除去したところもとの水路であることが判明したため，調査地から除外した。また，5区と6区の間の80mの区間は，河道によって削られているため，これも調査の対象地から除外した。したがって，調査は南北に分断されたあわせて4200㎡で実施した。

（遺構・遺物）

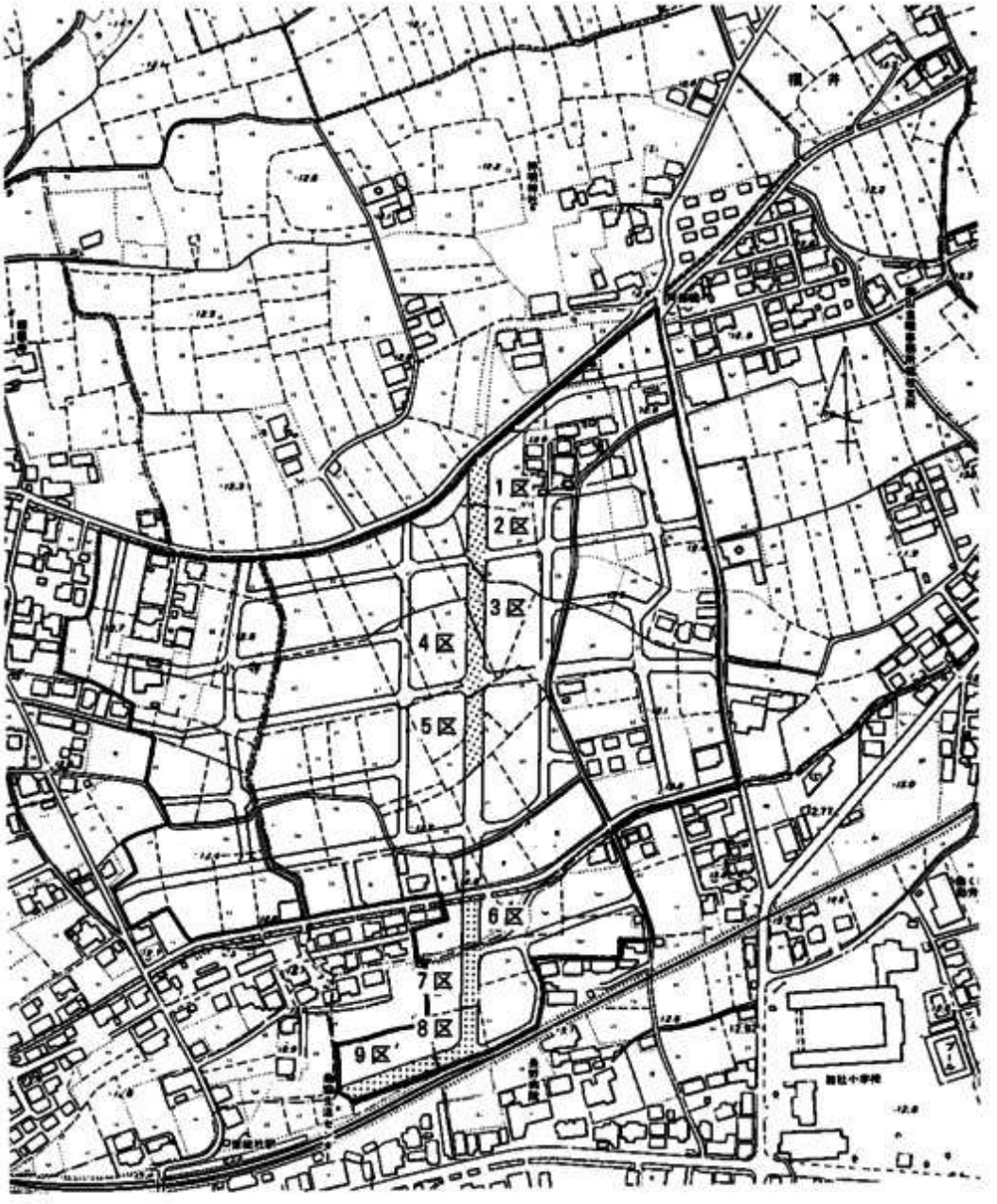
北半は，2区で夥しい数の柱穴が検出され，集落の中心近くと考えられる。建物としてのまとまりを示すものは見うけられない。埋土に焼土や鉄滓の小片などを含むものがあり，鍛冶工房などが付近にあった可能性が考えられる。時期は鎌倉ないし室町時代である。

3～5区では，土壙や幅2m程度の溝などが検出された。南に向かって徐々に遺構も少なくなる傾向にある。

6～9区は，まず6区では，南端で柱穴等がごくわずかに認められたにすぎず，微高地の縁片部と思われる。7区ではややまとまって遺構が分布する。時期は一部古代と考えられるものもあるが，中世が多い。また側溝では古墳時代の須恵器も包含層中から検出されたが，包含層自体も円礫層の直上であり，明らかに古墳時代の遺構とわかるものは認められなかった。8区は，西端部に浅い土壙を検出したにとどまる。9区は，東半部に掘立柱建物1棟，西半部に溝や柱穴などが認められたが，上部を相当削平されているらしく，遺構の残存はごく浅い。

これら遺跡については，現存する道路・用水路によって二つの微高地に分かれ，別の遺跡と見るべきと考えられる。地域的には，現在の福井・小寺の集落が安定した微高地上で，弥生時代以降の遺跡に重なっていると考えられるが，当該地には，弥生時代の遺物は知られておらず，安定した生活の場となったのが比較的遅かったと考えられる。さらに，そのなかでも6～9区の宮後地区のほうが包含層中に7世紀ごろの須恵器をまじえることから，いくぶんかは早くか

ら生活が開始されたようである。また，宮後遺跡の中心は，調査地よりも南東方向に想定され，位置的には，総社宮との関連も考慮にいれるべきかもしれない。　（高　田）



（1～5区　広峰遺跡
6～9区　宮後遺跡）

第21図　調査区位置図（S＝1/5,000）

新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査１

遺 跡 名　横寺遺跡

所 在 地　総社市新本723外

調査期間　1993年４月１日～10月14日

調査面積　9200㎡

調査概要

（調査経緯）

1993年度は前年度にひき続き５区から９区の調査を行った。５・６区は山裾より南に伸びる舌状の段丘上に位置し，横寺遺跡の中心的な部位を占め，遺構を最も濃密に検出した。

７区は段丘の裾部に位置し，４区より続く低湿地の肩部を確認したが，造成などの遺構は確認できなかった。この段丘と７・８区の間には南に伸びる浅い谷が埋積して形成された低湿地が存在する。８・９区は，この低湿地と東の津梅川に挟まれた細長い段丘上に位置しているが遺構はさほど濃密ではない。

（遺構・遺物）

５区では特に歴史時代の遺構が顕著に確認できた。その構成は，掘立柱建物12棟，井戸，溝，土壙などである。建物で７世紀末と考えられるものは，柱間寸法が２ｍ前後で，掘方は一辺約0.7ｍから１ｍのものが多く，等間隔で東西南北に配置されている。また，建物群を造営する為に窪みを土間状に整地した面と，東の斜面を小石で葺いた状態が検出された。

８世紀後半から９世紀の建物には，倉庫と庇付きのものがあるが，いずれも，規模が小さく，柱を抜いた後に石や土器を埋め戻している。

井戸SE01は深さ約1.2ｍで円形の掘方の中に，1.2ｍ四方の木枠を設け白砂を敷いている。遺物は多量に出土したが，この井戸と同時期の建物は確認出来ていない。

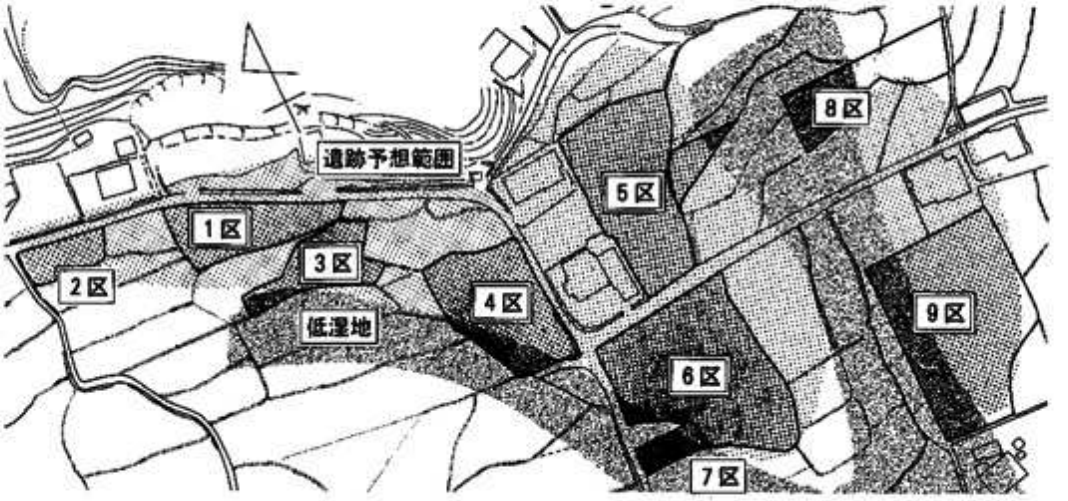
５・６区の古墳時代の遺構は住居址20軒を確認し，うち13軒がカマド付きである。

弥生時代の遺構は住居址25軒，土壙，溝，土器棺，貯蔵穴などで，時期としては後期のものが殆どである。住居の規模は直径７～８ｍで２・３回の拡張をしたものが多い。

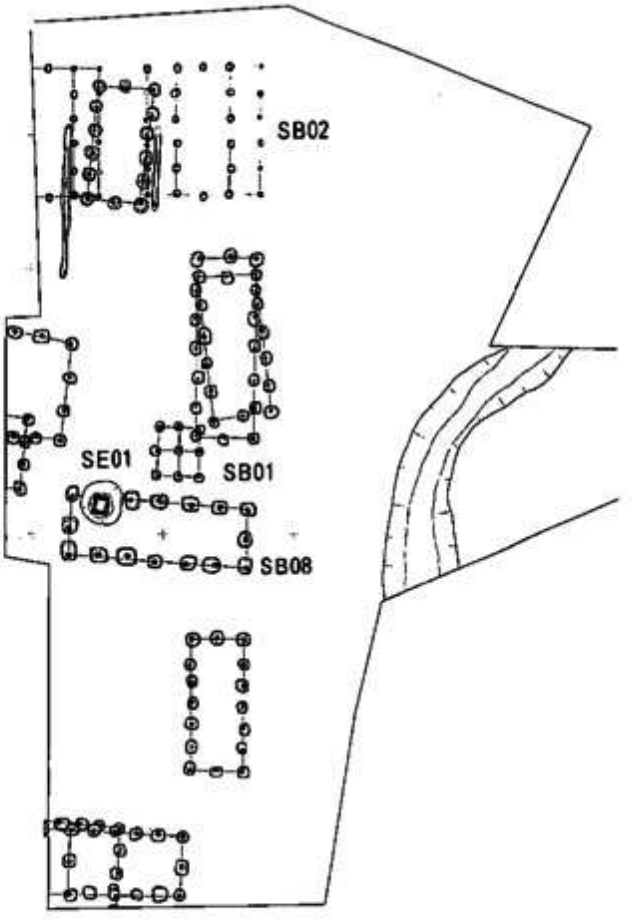
７．８区では古墳時代初頭の住居２軒と土壙多数を検出した。

遺物は整理用コンテナ230箱が出土した。その大半が弥生土器で，住居址覆土や土壙，包含層などから廃棄された状態で出土したものが多い。

また，弥生時代後期と考えられるＳＨ07の床面上から小銅鐸が，近接する土壙からは小型家形土製品が出土した。これらの遺構は段丘の西端に位置するが，西下方の４区にかけての斜面からは，船，竜など各種の線刻を施した土器が集中して出土した。



第22図　調査区配置図（S＝1/3,000）



第23図　第５調査区遺構配置図（S＝1/600）

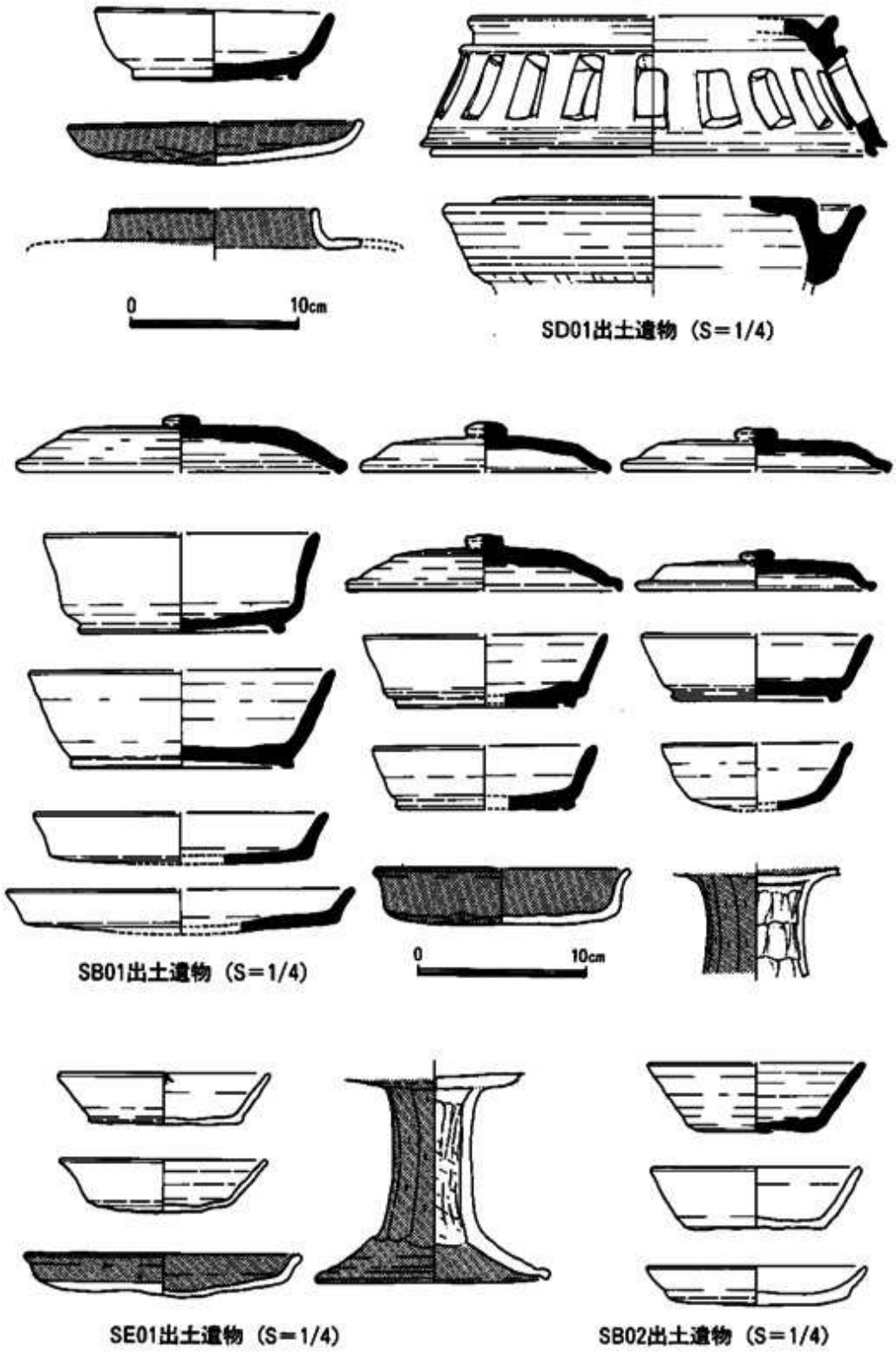
5，6区と9区の間の谷状低湿地の下層からは弥生時代中期の土器と共に木製の鍬が出土した。

古墳時代初頭で最も規模の大きいＳＨ09内の土壙からは鏡片が埋納された状態で出土した。

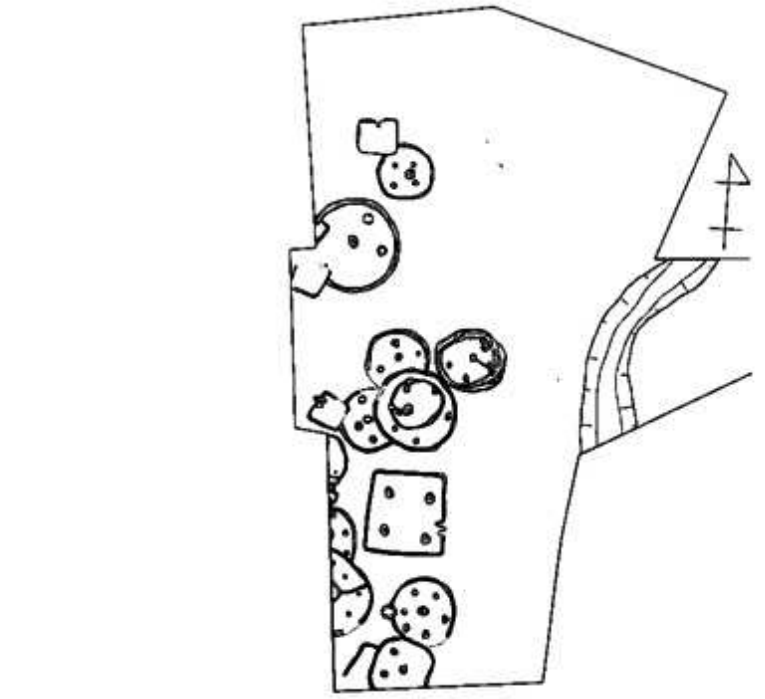
また，7区の低湿地からは6世紀初頭の須恵器の坏，甕，土師器の甕，甑がまとまって投棄された様な状態の出土がみられた。

この他，5区の建物造成面により埋められた窪みからは，7世紀前半の須恵器，土師器と廃材が検出された。

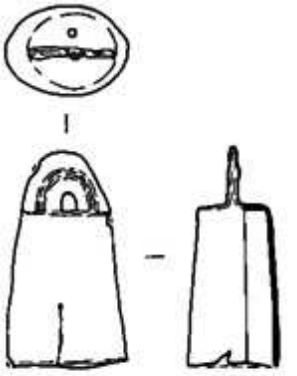
5区の建物群に伴う土器はＳＢ08を切る浅い溝ＳＤ01から須恵器の坏・高坏・壺・甕・円面硯，丹塗り土師器の坏・皿・壺・鉢などが出土した。これらの土


0
10cm
SD01出土遺物（S＝1/4）
SB01出土遺物（S＝1/4）
0
10cm
SE01出土遺物（S＝1/4）
SB02出土遺物（S＝1/4）

第24図　出土遺物



第25図　第5・6調査区
遺構配置図（S＝1/800）



SH07出土小銅鐸（S＝1/2）

SK01出土家形土製品（S＝1/2）

第26図　横寺遺跡出土遺物（S＝1/2）

器は8世紀初頭の所産と考えられ，柱穴から出土した土器の年代とも矛盾していない。

3間×3間のＳＢ01の柱穴からは柱を抜き取った後に埋め込んだ状態で多量の土器・炭・焼土が検出された。土器は須恵器の坏・蓋・皿・壺・甕，丹塗り土師器の坏・高坏などであるが，いずれも火を受けている。時期としては8世紀後半が考えられる。

ＳＥ01からは土師器の坏・皿・高坏が破損した後に投棄された状態で出土した。時期としてはＳＢ02より前出の9世紀後半が考えられよう。

（ま と め）

今年度，調査を行った5区から9区のうち，最も注目されるのは，5区で検出された建物群である。その規模・規格性や出土遺物，特に4・5区で16個体の円面硯と丹塗り暗文土師器がまとまって出土したこと等から考えると官衙的性格を考慮する必要がある。

しかし，段丘上の東半分の調査に限定されたため全体の規模については，やや不明であることや，県内の他の官衙に比べて建物が若干小さい事から断定は出来ない。

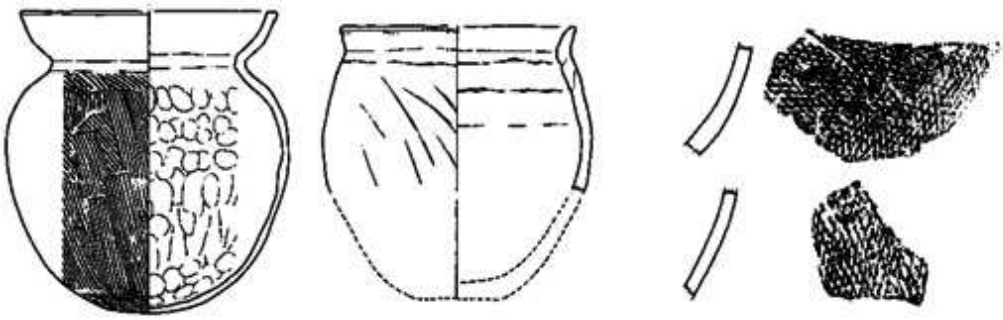
ただ，規則的な建物群が存続していたのは7世紀末から8世紀初頭の藤原京期の短い期間である事から，本格的な律令の諸制度が整備される以前の官的な施設（評衙？）の可能性も否定できず，地理的・歴史的背景を含めて考えたい。

横寺遺跡の所在する新本川上流域は備中国下道郡田上郷に比定されている。下道郡は南の小田川沿いに旧山陽道が通り，箭田大塚古墳・箭田廃寺・八高廃寺など著名な遺跡が存在することから，現在の真備町に政治的な中心があると考えられてきた。

しかし，新本川流域も今回の横寺遺跡を始め秦原廃寺・長砂の石棺など7世紀代の重要な遺跡が存在する事や近年，明らかになった後期古墳群や製鉄遺跡群から考えてかなりの政治勢力が存在した地域と言えよう。

また，弥生時代後期にも濃密な住居の分布がみられ，小銅鐸・家形土製品・絵画土器などの特別な遺物出土とあわせて，この集落が流域の中心的な存在であったことが推定できる。

以上の詳細及び検討は遺物整理の終了を待って報告したい。　　（武　田）



第27図　6区SK110出土遺物（S＝1/4）

第８図版　横寺遺跡５区（真上から）

第９図版　横寺遺跡５・６区（真上から）

新本新庄地区ほ場整備に伴う発掘調査２

遺 跡 名　坊ケ内遺跡

所 在 地　総社市新本7126外

調査期間　1993年12月１日～1994年３月31日

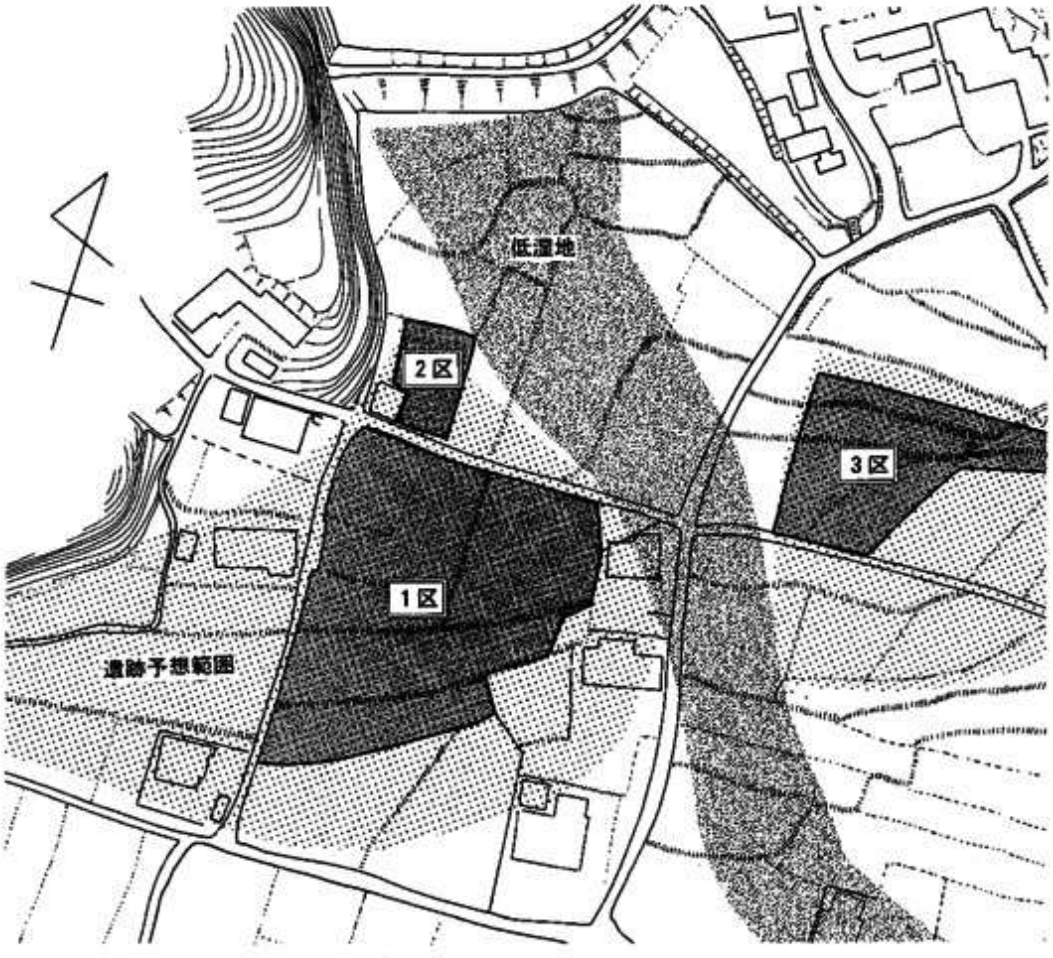
調査面積　5,500㎡

調査概要

（調査経緯）

1993年度工区の調査に引き続き，12月より1994年度工区の事前調査を行った。対象となったのは新庄の薙田・浪月地区10haである。

当地区は新本川の北岸地域の中では，比較的，川の浸食を激しく受け平坦な部分が少なく，集落などの立地にはあまり条件がよくない。このため遺跡の分布もさほど密では無いことが予



第28図　調査区配置図（1/2,000）

第29図　1区遺構配置図
（S＝1/600）

想された。試掘調査はバックホウを用いて掘削により影響を受ける部分についてのみ34本のトレンチを設定して堀り下げた。

その結果，予想以上に大小の谷と新本川による浸食が顕著で，ほとんどの地点で遺構・遺物が皆無であった。

遺跡は浪月池が位置する谷を挟んで南に突き出た舌状の段丘上の約8000㎡に確認できた。

特に西側に伸びる平坦な段丘は西隣の1996年工区にも続くため，つづけて遺跡も広がることが十分予想出来る。

本年度の調査は遺構が濃密に確認された１区から行い，３月末までに歴史時代の遺構面の調査が終了し，古墳・弥生時代の集落の調査は４月以降に行った。

（遺構・遺物）

中世の遺構は主に，柱穴と土壙が多数検出できた。中世の建物は，東西南北が多く柱穴を抜

いた後に石や，土師器椀を埋め込んだ例が多く，一種の地鎮と考えられる。

時期としては，土師椀などから考えて13世紀の中頃と思われる。

古代の建物は大別して３時期が認められる。１期は２間４間の５棟の掘立て柱建物が主軸をやや西に振ってコの字状に配置されている。２期は主軸をほぼ南北に合わせているが、規則的な配置は見られない。３期は庇付きの小さい柱穴で溝を伴う。１・２期の柱穴は１辺0.6から0.8ｍの隅丸方形で柱間1.5から1.8ｍを測るものが多く，柱材の残るものもある。

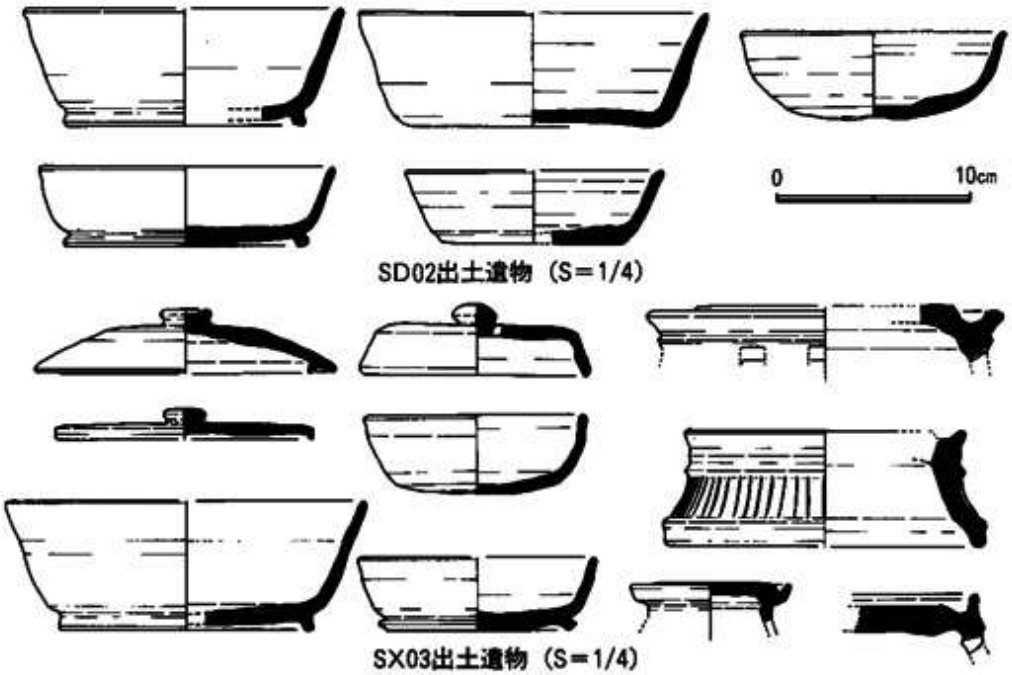
調査区は東と南に下降するため建物群は途絶するが，斜面部には人為的な落ち込みがみられ，遺物が多く出土した。

１期の建物に伴う浅い溝SD02から須恵器の坏と土師器の甕がかたまって出土した。

また，南端の斜面包含層からは須恵器の坏・蓋・壺・甕と円面硯６個体，丹塗り土師器などが出土した。これらの土器の時期としては，７世紀末のものも若干含まれるが，ほぼ８世紀前半の奈良時代初頭が考えられよう。

（ま と め）

本遺跡で確認された建物群は，600ｍ西方に位置し,前年度に調査された横寺遺跡の建物に比べると時期も若干新しく，規模も小さい。遺物も丹塗り土師器が少なく，須恵器の器種も少ない。その意味では官的な施設の要素がやや薄いと考えざるを得ない。しかし，一般的な農村ともみられないので，郷単位の施設の可能性も考えられる。（武　田）



SD02出土遺物（S＝1/4）

SX03出土遺物（S＝1/4）

第30図　１区出土遺物（1/4）

第10図版　坊ケ内遺跡遠景（南から）

第11図版　坊ケ内遺跡（真上から）

前川地区ほ場整備事業に伴う発掘調査

遺 跡 名　大文字遺跡，窪木薬師遺跡，山屋敷遺跡，亀山下遺跡

所 在 地　総社市窪木1097外

調査期間　1993年４月２日～1993年12月27日

調査面積　約5,000㎡

調査概要

（調査経緯）

今回の調査は，1989年にはじまる前川地区県営土地改良整備事業の最終年度であり，前年より継続して実施している発掘調査の1993年度分にあたる。調査地は総社平野の東部，前川が幾多に蛇行して形成した微高地ほかに位置しており，大文字・窪木薬師遺跡が前川左岸，亀山下・山屋敷遺跡が前川右岸になる。標高は大文字遺跡が8.4～７・窪木薬師遺跡が7.9ｍ，亀山下遺跡が8.9・山屋敷遺跡が8.5ｍを測る。周辺の調査では，前川改修にともなう窪木薬師遺跡，前年度のほ場整備にともなう中林遺跡の調査がある。

（遺構・遺物）

調査は，工事施工高の関係により，遺構の削平される範囲を全面調査とし，遺構面に達しないものの影響の残る範囲を遺構確認（検出）調査として行った。調査区は点在しており，それぞれに小字あるいは水田区画・排水路番号等を付けているが，ここでは全面調査を行った調査区について遺跡ごとにまとめて報告する。

大文字遺跡は，５ケ所の調査区から竪穴住居30軒が検出され，円形住居４軒，方形住居26軒である。円形住居は直径６～７ｍで，いずれも弥生時代後期のものである。方形住居はカマドの付くものが15軒で，その９割以上が北壁か西壁に築かれており，６世紀半～７世紀代のものである。また，カマドの付かないものが５軒あり，うち１軒は多量の土器を廃棄したままの状態で検出され，その出土遺物から古墳時代前期のものとなる。

住居のほかに柱穴が多数検出されたが，調査面積などの関係から掘立柱建物を推定することはできなかった。しかし，時期不明であるものの，掘形70～80cm，柱間150～160cmを測る柵列状遺構が検出されている。この遺構は，方形に囲むものと推定される，その北東隅にあたり，南へ８間，西へ４間分の柱穴が検出された。柱穴の規模などから，中に推定される建物が一般の集落にともなうものでないことがうかがえる。

窪木薬師遺跡は，排水路部分の調査であり，わずかに２軒の住居が検出されたにすぎない。このうちの１軒は西壁にカマドが築かれており，その中央には角礫の支脚が残されていた。また，制約があったものの今回の調査により窪木薬師遺跡の北端を確認することができた。

亀山下遺跡からは，竪穴住居３軒が検出された。いずれも西壁にカマドの付く方形住居である。このほかには溝が数条と，方形に囲む柵列や柱穴など，その遺構密度はまばらである。また，その多くが中世のものと推定される。

山屋敷遺跡では，竪穴住居10軒が検出された。このうち１軒が方形となるほかは，すべて円形の住居である。円形の住居は直径６～７ｍのものが多いが，５ｍに満たないものもある。いずれも中央穴をもった４～８本柱の住居で，弥生時代後期のものである。

住居のほかには，１×１間，１×２間の掘立柱建物が４棟検出されたほか，溝や土壙墓と推定される土坑などがある。

遺物は，コンテナにして約100箱ほど出土している。土器では，弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器があり，ほかに瓦なども少量であるが出土していることなどから，これまでの周辺遺跡での調査成果とほぼ変わるものでない。

しかし，年報の目的とする特記すべき遺物がいくつか出土していることから，ここに速報として報告する。ただし，出土遺物の中にはまだ洗浄の終了していないものがあり，また，整理もまったく手付かずであることから，詳細に共伴遺物などの検討を行っていないことをあらかじめ断っておく。報告は３点である。

まず，大文字遺跡の１竪穴住居の埋土から，完形の子持ち勾玉が１点出土している。長さ10.6・幅6.5・厚さ3.95cm，子勾玉11個をもつものである。製作にあたっては，背面側と一側面側の子において２個一対の突起がそれぞれ重なってくる部分が認められる。また，頭部の穿孔において一側面から２度行われていることからも，精巧な作りでないことを示している。石材は緑色片岩。勾玉の出土状況は，カマドをもつ方形住居の床面より７cmほど浮いて検出され，住居出土の須恵器にはＴＫ43ごろのものが完形で残されていることから，勾玉が住居よりやや古いものとなる。伝世した後に廃棄されたものか。なお,住居内の埋土・覆土をすべてウォーターフロテーションし，ガラス製と石製の小玉・臼玉を40点以上検出することができた。

次に，亀山下遺跡から，初期須恵器が出土している。いずれも破片にすぎず，出土した状況も後の遺構に混入したものや包含層からの出土で，該当する時期の遺構はまったくないものの，県内においてこの時期の資料が少ないことからここに報告する。およそ40点ほど出土したほかに，軟質土器や須恵器の制作技法を模倣した土師器が出土している。確認できる初期須恵器の器種については，器台，壺，甕であり，坏類はないようである。また，従来より在地産と推定されていた，砂礫を多く含んだ，やや焼成の甘いものが半数近くある。

壺は胴部片で，内外面ともナデによる整形，タタキは認められない。

甕は，ほぼ水平に広がる口縁部で，端部を丸く整え，口縁下にややにぶい断面三角の１条凸線をもつ。

器台には，筒形と高坏形とがある。筒形は直立気味の脚端部と，これと同一個体となる脚柱部で，櫛描刺突文と組紐文を施している。高坏形は，いずれも脚部に三角形のスカシをもつものであるが，その文様構成において異なっている。波状文のみのもの，山形波状文と組紐文のものとがあり，ほかに大文字遺跡から組紐文と鋸歯文の組み合わせのものが出土している。また，鋸歯文には，そのヘラ描の施文に太いものと細いものとが認められる。

そして，山屋敷遺跡からは小型の鏡が１点出土している。鏡はかなり腐食が進行しており，縁や厚などがすりへっている。直径5.3・紐厚0.8・縁厚0.2cmを測る。鏡面には二重の圏線がめぐるほかは素文となるか。あるいは櫛歯文か。この鏡は円形の1住居から出土したものであるが，その埋土の最上面，つまり遺構検出時に出土したもので，この住居の深さ20cmであることから，床面よりかなり浮いた状態の出土といえる。しかも，埋土の堆積する途中において火を焚いた跡がいくつか検出され，鏡の裏面に木片が付着していたことからも，この住居の廃棄あるいはこの弥生集落の廃村時に箱のようなものに入ったままであやまって捨てられたものであろうか。

（ま と め）

調査区が小規模かつ点在していることから，住居をはじめ，各遺構全体のわかるものが少ない。その反面，集落全体の様相がある程度であるがわかってきた。この３年間の調査を簡単にまとめると，35haにおよぶほ場整備予定地内には，５遺跡が所在する。いずれも弥生後期～中世までにわたる遺構か遺物が確認されているが，それぞれの遺跡で中心となる時期やその性格が異なっていたことがわかってきた。

山屋敷遺跡は，前川の氾濫を受けるほかの低位遺跡より高台に立地しているにもかかわらず，弥生後期のみの小集落にすぎない。ほかにわずか古墳時代の遺構が検出されたのみである。

亀山下遺跡では，遺構にともなわないものの初期須恵器がほかの遺跡に比べて多く出土しており，調査区外の予想遺跡面積から山屋敷遺跡同様に小集落であったにちがいない。しかも周囲の地形なども勘案すれば，須恵器生産集落の可能性もうかがえようか。

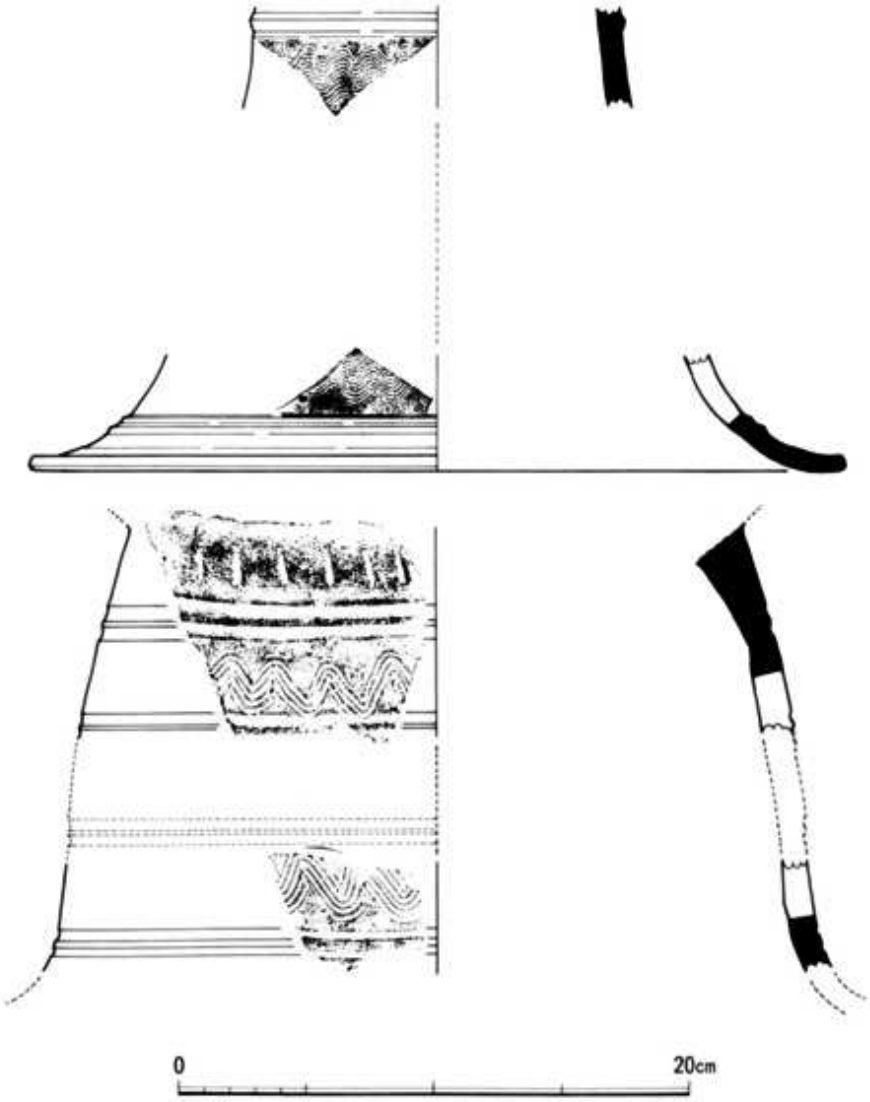
窪木薬師遺跡は，岡山県古代吉備文化財センターの調査によって，古墳時代後期に鉄器製作の専業集落であったことが推定されている。その反面，同時期の遺構が多く検出された大文字・中林遺跡では，鉄関連の遺構はわずかで，一般的な農村集落であった。

中林遺跡では，約１ｍ間隔で20ｍ以上×８ｍ以上にわたって検出された，古代～中世と推定される屋敷地を囲む柵列を検出した。しかし，このほかの遺構密度はわずかであった。その反面，窪木薬師遺跡ではおびただしい数の遺構が，洪水砂の上面より掘り込まれていた。

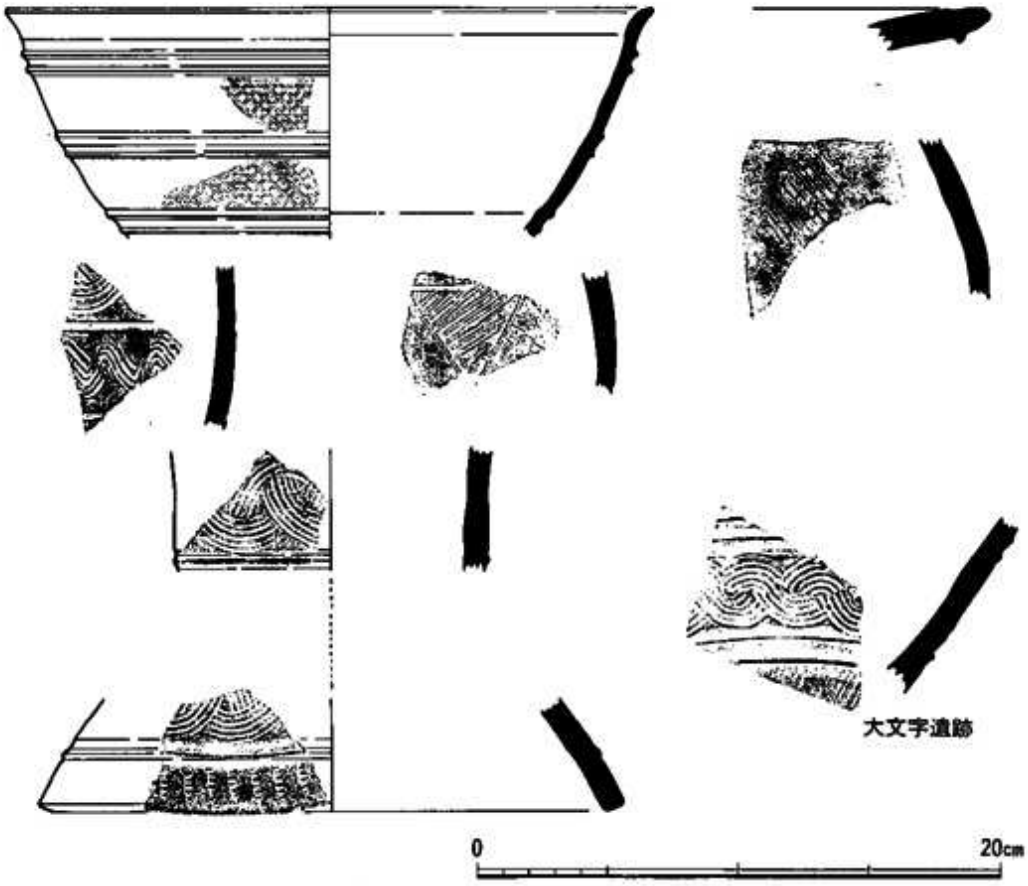
（前　角）

第12図版　大文字遺跡出土子持ち勾玉

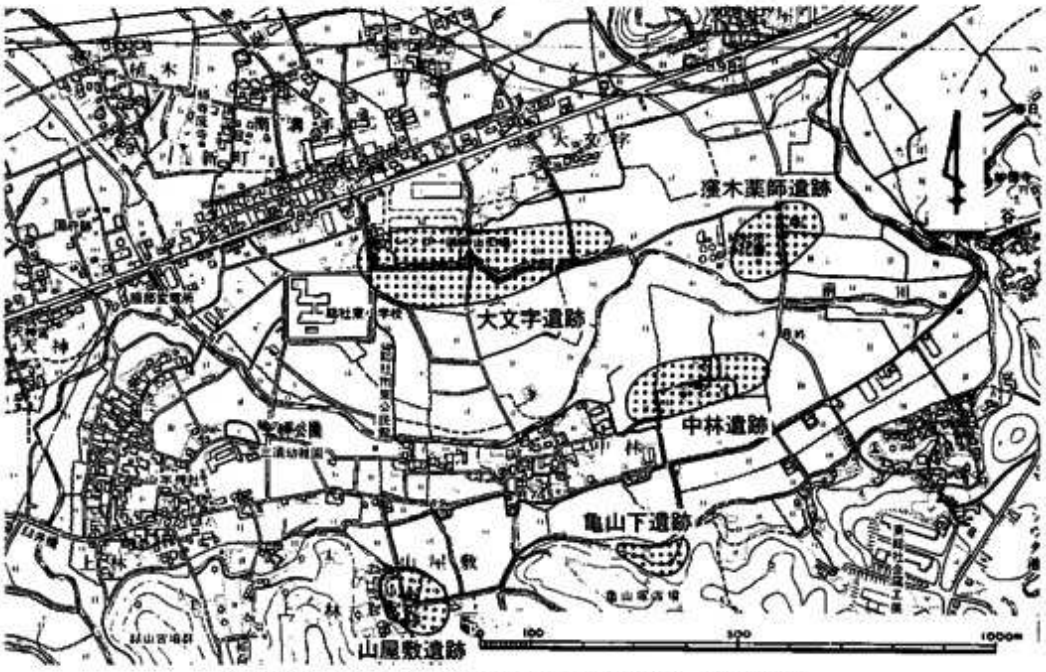
第13図版　山屋敷遺跡出土鏡



第31図　亀山下遺跡出土初期須恵器（S＝1/3）



第32図　亀山下遺跡・大文字遺跡出土初期須恵器（S＝1/3）



第33図　前川ほ場整備内遺跡分布図（S＝1/15,000）

三輪第２配水池築造・造成工事に伴う発掘調査

遺 跡 名　岩屋古墳群，岩屋遺跡

所 在 地　総社市三輪字柳ケ坪1587－３

調査期間　1993年９月20日～1994年２月10日

調査面積　1000㎡

調査概要

（調査経緯）

総社市中心部及び東南部に水を供給する三輪配水池が，需要の増加から新たにもう１基の築造が必要となった。配水池の立地条件として，平野部との比高差が70ｍ以上必要なことから，現在の貯水池に隣接して造られることになった。築造予定地には岩屋10～14号墳の５基の古墳が存在したが，協議の結果10・11号墳に関しては保存することができた。

（遺跡の概要）

本調査地は，総社市街地の南，標高約60～80ｍの三輪山丘陵ほぼ中央部に位置する尾根上に立地する。尾根は，後世に両側を大きくカットされている。

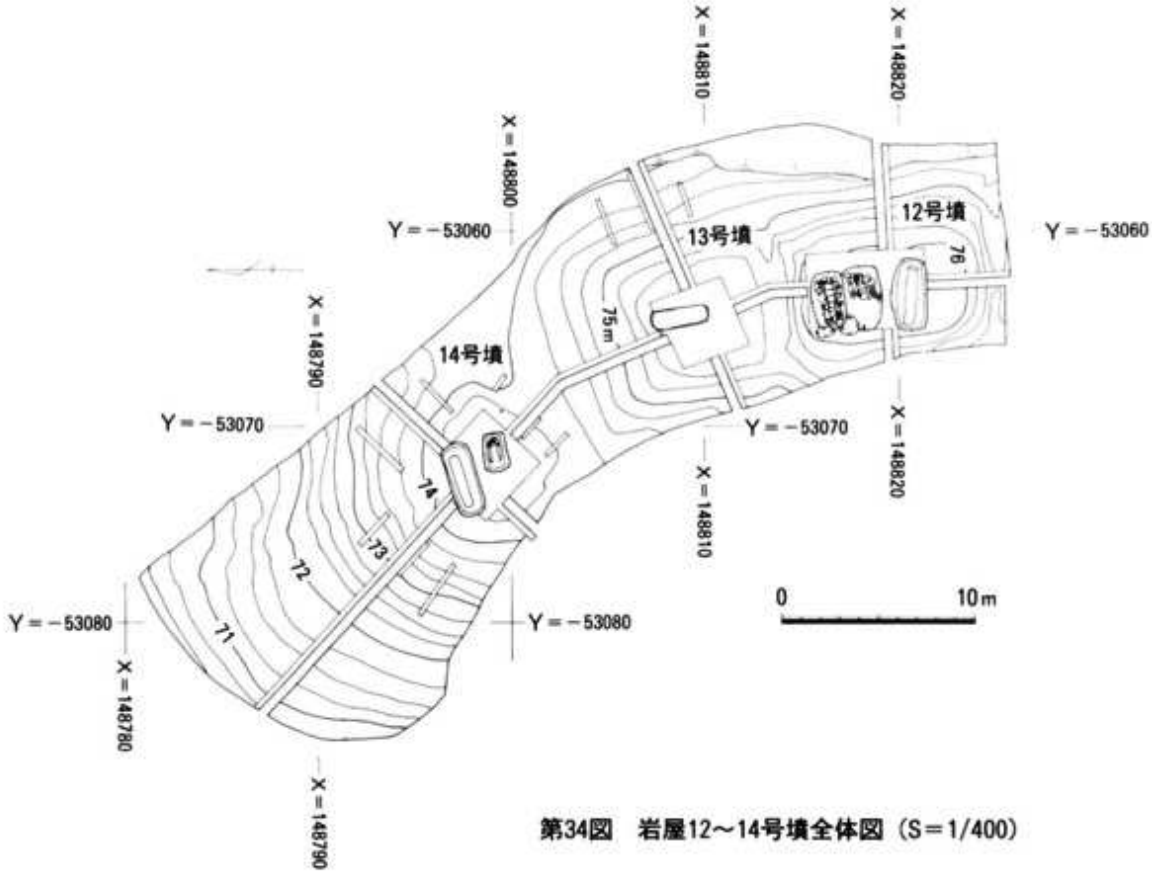
調査の結果，既知の岩屋12～14号墳のほかに，弥生時代後期の土壙墓約100基・土器棺７基，弥生時代中期の土壙４基，縄文時代と思われる落し穴２基を検出した。

岩屋12号墳は西側をカットされているが，南北に周溝をもち，南北11.6ｍ×東西推定10ｍの方墳である。主体部は木棺墓１基と，箱式石棺２基が並列している。箱式石棺はいずれも盗掘されており遺物は検出できなかった。木棺墓は未盗掘であったが，墓壙内の土を漉したにもかかわらず遺物は全く検出されなかった。

岩屋13号墳は，盛土のほとんどが流出しており，また周溝も12号墳と共有されたと思われる南側の周溝しか存在しないため，その規模を正確には把握することはできない。また西側もカットされているが，推定南北約9.5ｍ×東西約10.5ｍの方墳である。主体部は，ほぼ中央に木棺墓が１基存在する。副葬品としては，枕石の下付近から緑色凝灰岩製の管玉１点と，ガラス製小玉１点が出土している。

岩屋14号墳も，墳丘の流出が著しく，周溝も掘られていないため，墳形，規模共に不明瞭ではあるが，推定で南東－北西方向約９ｍ，東北－西南方向約９ｍの方墳と思われる。埋葬主体は木棺墓と，小型の箱式石棺が各１基並列して造られている。木棺墓からは勾玉１点と，鉄器３点が出土している。箱式石棺は，盗掘にあっており，遺物は検出できなかった。

これらの古墳は，周溝や墳丘流土から出土した土器からみて，古墳時代前期に属するものと思われる。



第34図　岩屋12～14号墳全体図（S＝1/400）

第14図版　土壙墓群全景（真上から）

土壙墓群は，各古墳の墳丘下および14号墳の北西側で検出された。調査区のほぼ中央に広場が設けられており，これより南側の高い部分では，土壙墓は比較的規則正しく並び，切り合いも少ない。とくに12号墳墳丘下では，それぞれが直交するように整然と配され，なんらかの区画が存在したものと思われる。

広場の北西にあたる低所側では，土壙墓の切り合いが顕著にみられ，南側の土壙墓群とは在り方が異なる。また，この一群は小児用の土器棺を伴っており，計７基の土器棺が検出された。

土壙は４基検出されており，いずれも大型である。そのうち斜面で検出された２基からは，弥生時代中期後半のほぼ完形と思われる土器が数個体出土している。住居址は検出されなかったが，近くに集落が存在した可能性が高い。

落し穴はいずれも長方形を呈し，底部中央に杭痕跡がみられる。遺物は出土していないが，埋土が異様に堅くしまっており，他の遺構埋土とは異なることから，縄文時代，それも古い時期の所産と思われる。

（ま と め）

三輪山の丘陵上には，前方後円墳である天望台古墳，三笠山古墳をはじめ，殿山古墳群，船山古墳群など前期古墳が尾根上に数多く並び，今回調査した岩屋古墳群もそれらのうちの一つである。殿山古墳群は，以前土採りのため調査が実施されており[註]，岩屋12～14号墳との比較が可能である。時期差や集団差が捉えられるかが課題となるであろう。

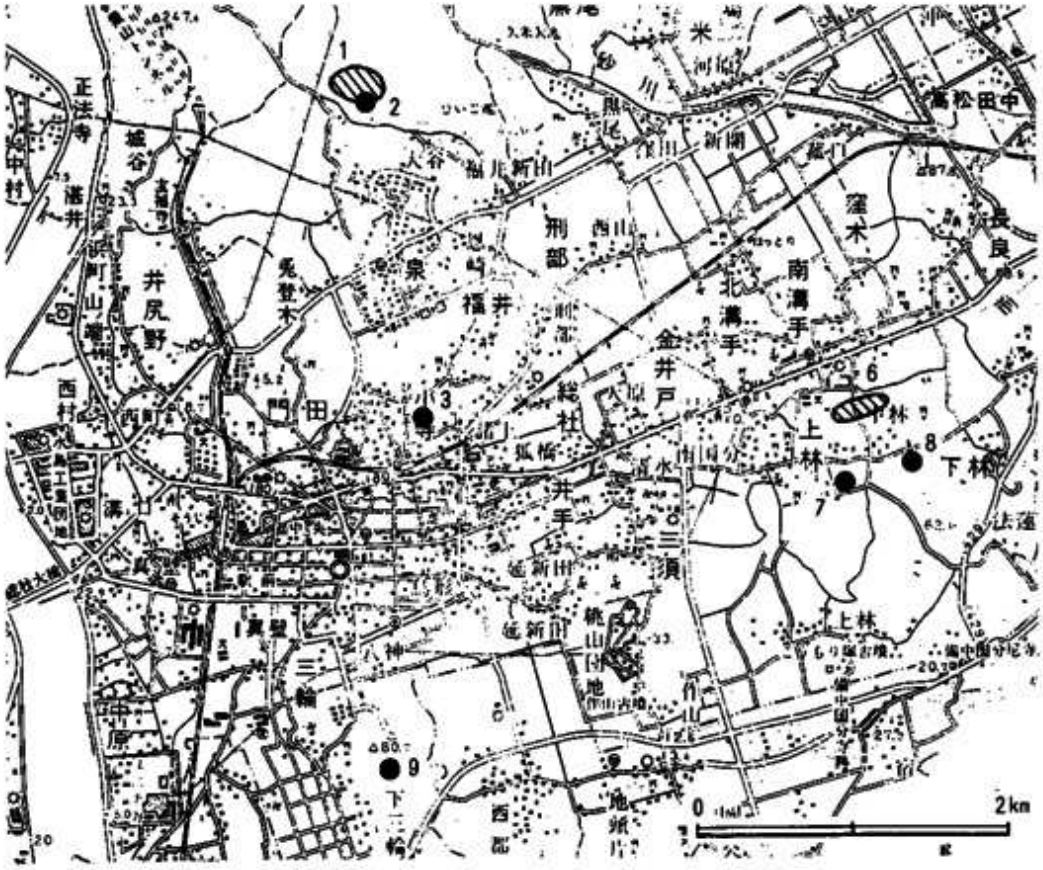
三輪山丘陵上には，宮山墳墓群や，柳坪遺跡のように特殊器台形土器や特殊壺形土器を出土した遺跡が存在する。しかし，時期的には重なる岩屋遺跡の土壙墓群からは，典型的な特殊器台形土器が出土していないことから，その性格の違いが認められる。

また，広場を挟んだ二つの土壙墓群の在り方の違いが，時期差なのか集団差なのか，整理を進めていく過程で明らかにしていきたい。

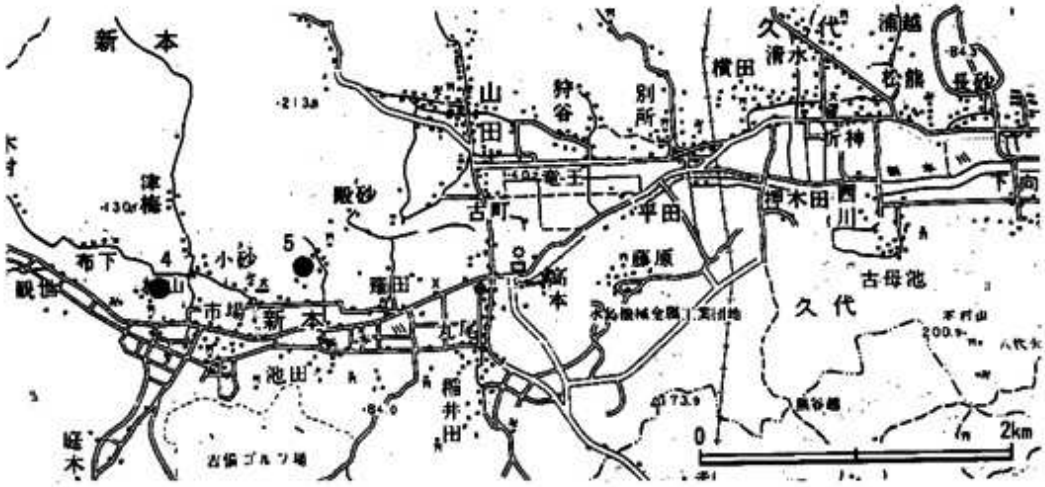
三輪丘陵上は，弥生時代後期から古墳時代前半期の墓域となっているが，これらの墓域を形成した集団の集落は未だ発見されていない。弥生時代中期後半の集落は，殿山遺跡でも発見されているように，一部この丘陵上にも立地する。しかし後期以降の集落は，他の遺跡と同様平野部に立地したものと思われる。平野部の古地形の復元等から，集落存在の可能性を探っていきたい。

（平　井）

註　平井勝「殿山遺跡，殿山古墳群」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』47　1982



高梁川以東



高梁川以西

1．福井大塚古墳群　2．福井大塚11・12号墳　3．広峰遺跡・宮後遺跡
4．横寺遺跡　5．坊ケ内遺跡　6．大門遺跡
7．山屋敷遺跡　8．亀山下遺跡　9．岩屋遺跡、岩屋古墳群

第35図　発掘調査位置図（S＝1/50,000）

総社市埋蔵文化財調査年報　4

1994年 11 月 30 日　印刷
1994年 11 月 30 日　発行

編集発行　総社市教育委員会
総社市中央一丁目1番1号

印　刷　柳本印刷株式会社
総社市総社一丁目10番24号